

シヌグ調査を行ないました

9月10日午後那覇へ

11日 県立図書館

12日 瀬底島練習

について調査 →

浜元のシヌグ調査→

13日 瀬底島のシヌグ

調査

14日 健堅を調査

15日 県立図書館

帰路へ

詳しくは11月以降に・・・？



2025年10月10日

(9月25日現在)

平取町の天体に関する伝承から

日本列島の星文化を考える

星の伝承研究室

北尾浩一

タイトル「平取町の天体に関する伝承から

日本列島の星文化を考える」

アイヌの星文化から、日本列島全体の星文化を考える

沖縄を意識しました。

末岡外美夫氏の著書、『人間達(アイヌタリ)にみた星座と伝承』に2カ所の記述があります

(1) 梅津サキ媪、夫の戦死とスワラノチウ(宵の明星)

(2) 沖縄県宮古島の狩俣の祖神(うやがむ)のに一りを引用

(1) 梅津サキ媼、夫の戦死とスワラノチウ(宵の明星)

末岡外美夫(すえおかとみお)氏は、『人間達(アイヌタリ)にみた星座と伝承』p115-116 (U・S)(『アイヌの星』に梅津サキ媼)

トイモシリクンネ	とっぷり暮れて	ソノポカ	その中(うち)に
スワラノチウ	スワラの星が	ヘイシ ネ ウタリ	兵士たちの
オマン	巡り歩く	ホシツパ アツ	帰還の噂が流れたのに
アンチカル	夜最中(さなか)	クユポ ユポ!	私の愛しい夫よ!
.....		アル アン・ウン モシリ	貴方は異郷の地に
オロアノ アン	それからは	オポネ アマ アリ	屍(かばね)を捨てたと
ク ソモ イペ	食も摂(と)らず	ク イヌ	聞きました
ク ホツケ パテキ	ただ臥(ふ)していた		

梅津サキ媼の夫の戦死された場所
は不明。沖縄戦でアイヌ民族43人
が亡くなっている。

沖縄県糸満市真栄平

南北の塔

キムンウタリ(山の仲間たち)



末岡外美夫氏は、「人間達(アイヌタリ)のみた星座と伝承」p116-117で、宮古島狩俣の祖神(うやがむ)のにーりを引用している。

天のあかぶしややよ

天の明星(金星)よ



てだなうわ 真主(まぬす)よ

太陽の子 真主よ

ドントナギ、マサリヤガ

(囃子ことば)

でだのぶーず 豊見親よ

太陽の大按司 豊見親(とよみや)よ

上なうわ 真主よ

天上の子 真主よ

ドントナギ、マサリヤガ

(囃子ことば)

(狩俣定弘さんが父親・狩俣昌喜さん(大正13年生まれ)の唄うのを録音)

末岡外美夫の指摘(「人間達(アイヌタリ)のみた星座と伝承」)

(1) 円陣を組んで拍子をとリ、神々の系譜とそのその歴史をほめたたえる「祖神にしり」(ママ)(祖神(うやがむ)のに一り)は、アイヌの歌謡を思い出させる。

(2) 旧暦の九月から一二月までの間に行われる冬ウプナーの内容に、アイヌの祖先祭イチャルパと通じるものがある。

(3) この地の太陽と金星の関わりは、アイヌモシリ の口碑に近い。は、アイヌの祖先祭と通じるものがあると記している。

(4) 2500キロも離れている北と南の島の民の間に、似た星の見方と風習があるのも天のなせる技であろうか。

末岡氏は、金星と太陽の関わりをアイヌモシリ
の口碑に近いと記している。

.....

鍋沢モトアンレク氏が伝えていた夜明け星、夜中星、夕暮星

「KAMUY OYNA神伝」に、夜明け星、夜中星、夕暮星が
登場し、5人の女の神は、次のように姉妹の関係にある。

上から①Nisat-saot nochiw 夜明け星②Annoski-nochiw
kamuy夜中星③Aronuman nochiw kamuy夕暮星④Kunne-
chup-kamuy月⑤Tokap-chup-kamuy日(太陽)

・nisat:朝 cha:口 ot:にある、早朝の ・an:夜 noshki:真中
nochiu:星 「真夜中に天の中央、われわれの頭の真上はるか
に見える星だという。スバル星かという」と記されている。 ・ar:全
onuman:夕 nochiu:星、夕の星(門別町1969)

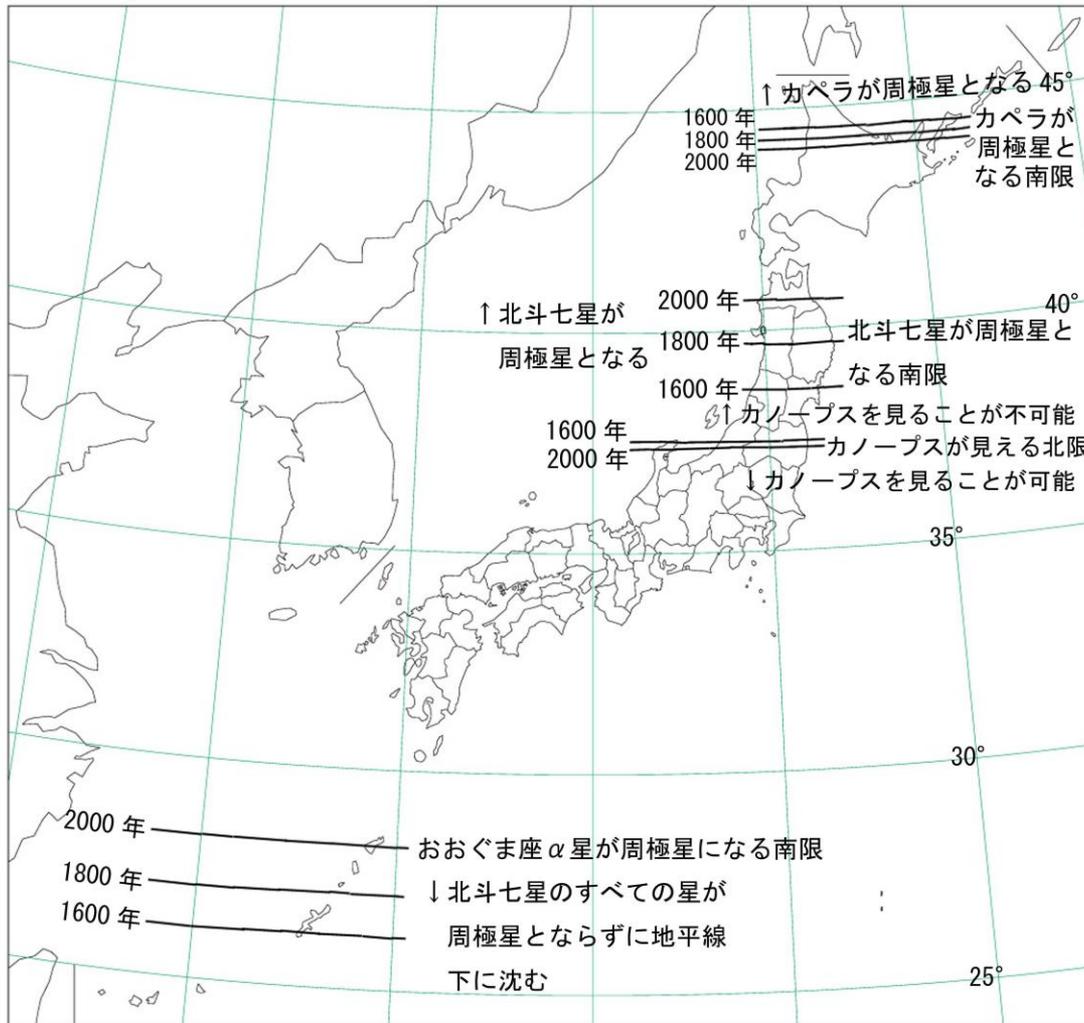
今日は、

- ・平取町(びらとりちょう)二風谷(にぶたに)の星名伝承
- ・日高地方の星名伝承(沙流川流域むかわ町を含む)



平取町を中心に日高地方の星名伝承から日本列島の星文化を考える

東北地方、瀬戸内海、沖縄・奄美と星の名前、伝承は連続しているかどうか・・・考えていきたい



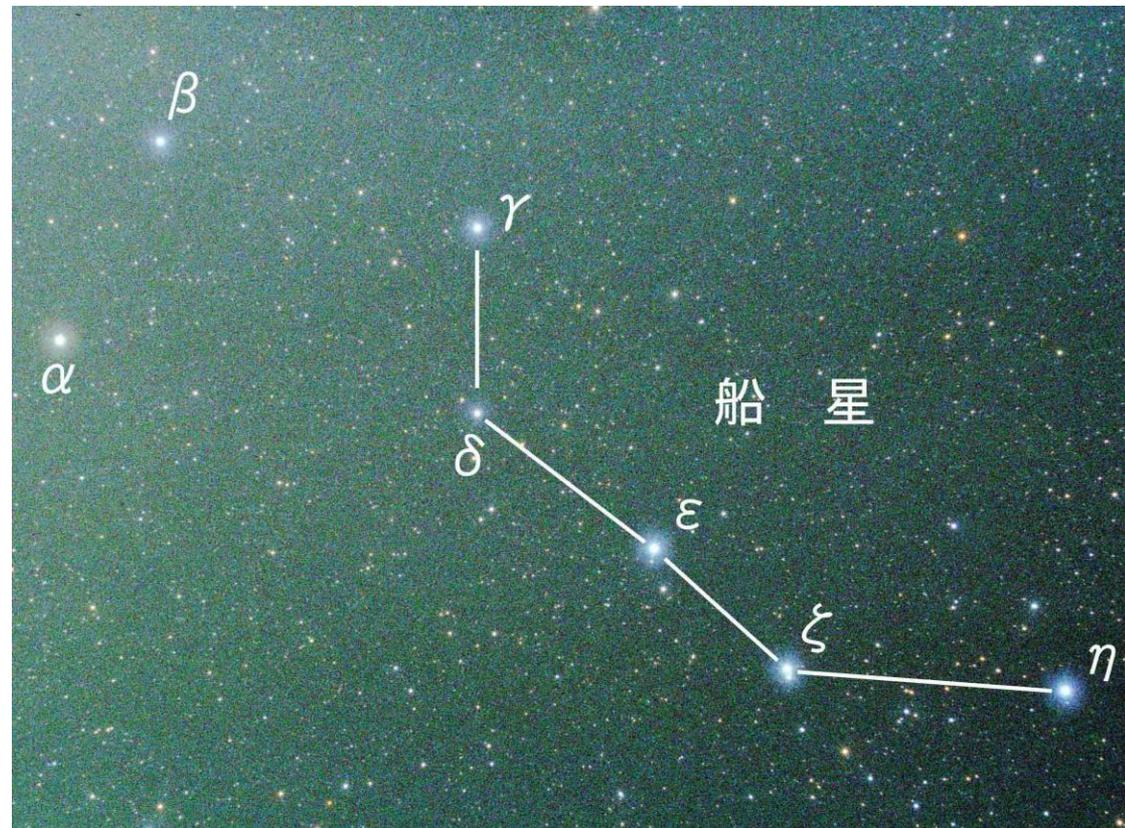
・日本は、南北に長い。もっとも北の北海道宗谷岬は、北緯45度31分22秒、有人島でもっとも南の沖縄県波照間島では北緯24度2分44秒と、20度以上ちがう。従って、北極星(こぐま座α星)の高度は20度以上も異なり、最北端の高度は、最南端の倍近くになる。

・北海道は、北斗七星が周極星になる一方で、沖縄は北斗七星のすべての星が周極星とならずに地平線下に没する。北斗七星の見え方の特徴が伝承の形成に結びついた。

暮らしと星空を重ね合わせる過程において形成された星名

おおぐま座 α β γ δ ϵ ζ η (北斗七星)

おおぐま座 γ δ ϵ ζ η



暮らしと星空を重ね合わせる過程において形成された星名
共通した星名形成「柄杓」「船」

おおぐま座 α β γ δ ϵ ζ η (北斗七星)

	アイヌ	大和	沖縄・奄美
柄杓	平取町 ピサクノカ pisakku noka (萱野2002)	鹿児島県出水市住吉町、宮城県気仙沼市 大島 ヒシャクボシ (北尾C)	沖縄県糸満市ニーブブシ(北尾C)、八重山郡竹富町鳩間島フダルブシ(北尾AC)

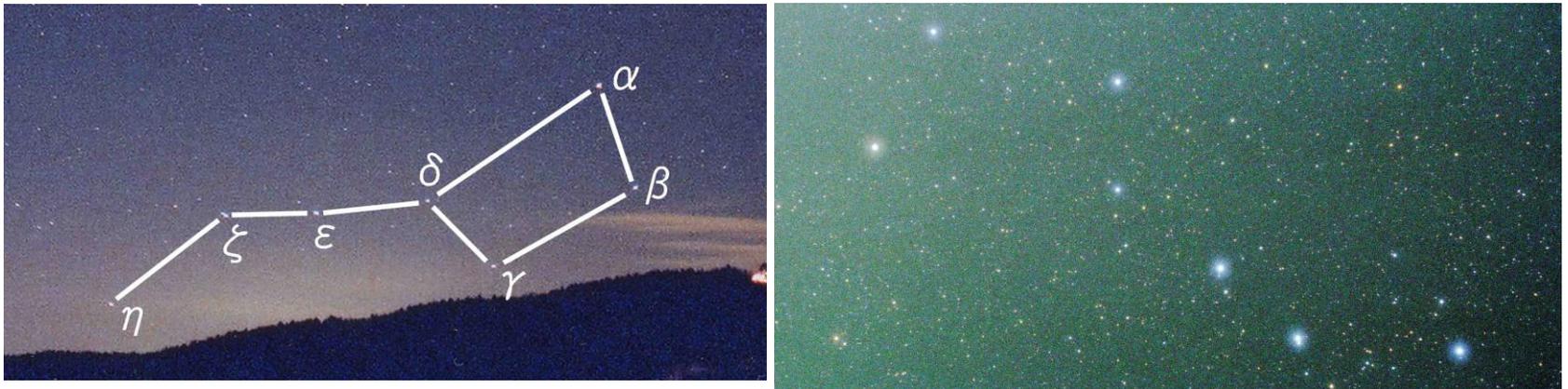
おおぐま座 γ δ ϵ ζ η

	アイヌ	大和	沖縄・奄美
船星	アイヌモシリ南部海岸チプ・ノチウ(舟・星) チプノカノチウ(舟・の形をした・星)	島根県鹿足郡畑の大庭良美氏フナボシ(野尻1973)	宮古郡上野村字宮國(現 宮古島市) フニブス: 漁船や航海中、船員たちが見当にすると云うことから船星と伝えられている(北尾AC)

特徴ある星名形成（アイヌ）

おおぐま座 $\alpha \beta \gamma \delta \varepsilon \zeta \eta$ （北斗七星）の全ての星が沈まない星空景観であることが星名形成に影響した。

◎クット・コノカノチウ 上向きに寝た「カムイ」の姿をしている・星 **北の地平線近くに上向きに寝た姿（下左）**



◎ウプシノカ・ノチウ 下向きに寝た「カムイ」の姿をしている・星 **空高く下向きに寝た姿（上右）**

特徴ある星名形成（大和）

(1) 構成する星の数にもとづいて形成された。「ナナツボシ（七つ星）」が広く分布している。

(2) 柵、酒柵に見立てた星名は、オリオン三つ星と小三つ星と η 星に多いが、北斗七星（おおぐま座 $\alpha\beta\gamma\delta\varepsilon\zeta\eta$ ）を意味するケースがある。

(3) タノクサボシ（田の草星）本田實氏による。広島県沼隈郡に伝えられている。田の草を取る乙女の列に見立てた。

（野尻1973）

(4) カジボシ（舵星）(5) キタノオオカジ（北の大舵）金田伊三吉氏が石川県珠洲市で記録した。1983年3月、金田伊三吉氏とお会いして、昭和16年当時85・86の人が伝承していた。いて座の南斗六星（ミナミノコカジ）と違い、大きく、また、北のほうに輝くことからキタノオオカジという星名が形成された。

(5) チソー（四三）、チソボシ（四三星）

1983年、愛媛県西条市西之川（石鎚山）において記録。

「スマル、カセボシは入（い）るくがあるが、私はチソボシ入るくない」（北尾C）

スマル（プレアデス星団）とカセボシ（オリオン座三つ星）が西の空へ低くなっていくとチソボシ（北斗七星）が高くなっていく。スマル（プレアデス星団）とカセボシ（オリオン座）は西の山々へと入っていくが、チソボシは入ることができない…と歌った。

厳密には、現在、愛媛県西条市石鎚山からは北斗七星即ち、おおぐま座 α β γ δ ϵ ζ η が全て沈むわけではない。 η 星と γ 星は沈む。時代をさかのぼり、西暦700年頃以前には α β γ δ ϵ ζ η 全てが入るくないこと即ち周極星になる。しかし、実際は η 星と γ 星が沈んでも「チソボシ入るくない」と伝承される星空景観と考えることも可能ではなかろうか。

特徴ある星名形成（沖縄・奄美）

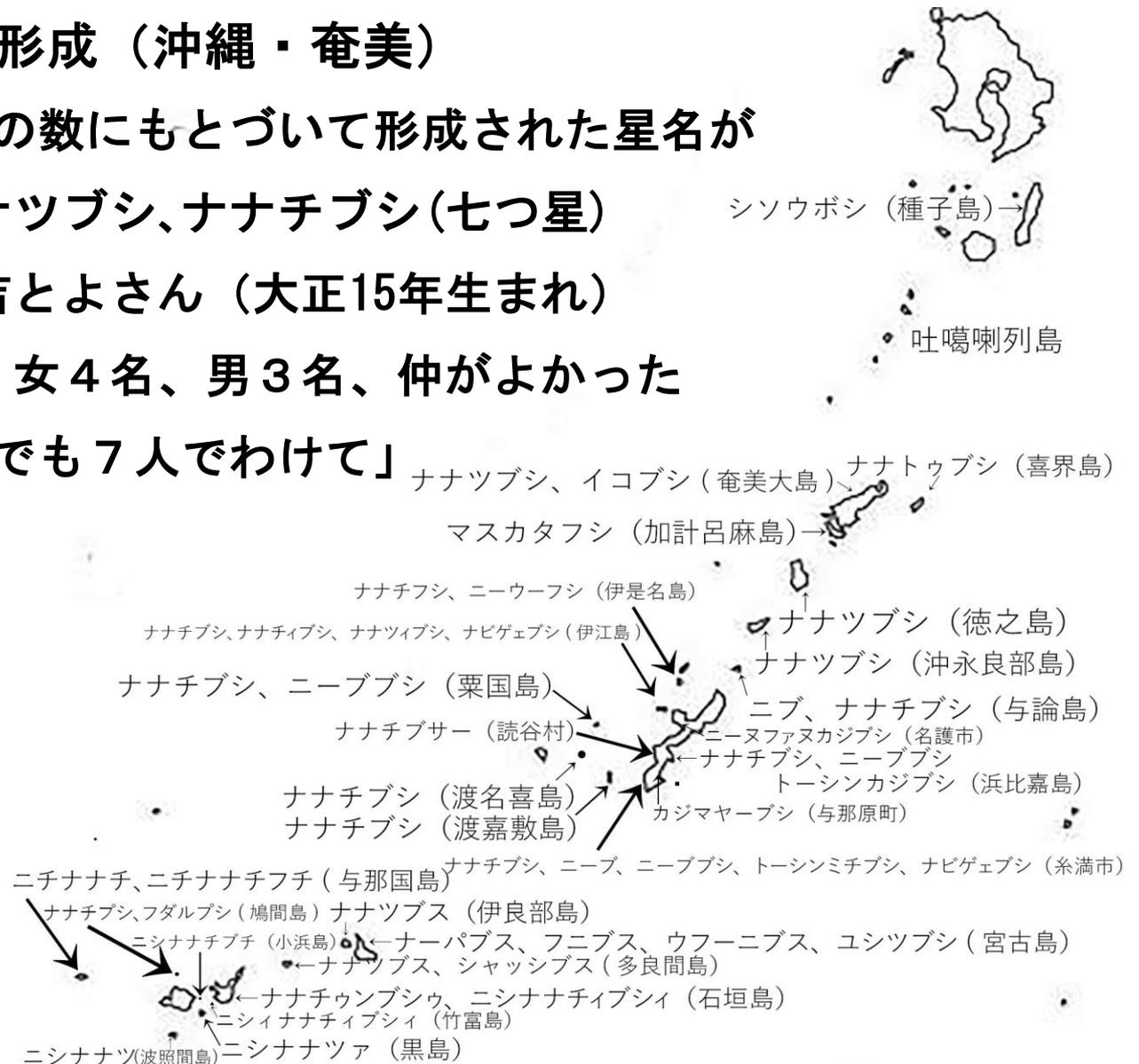
(1) 構成する星の数にもとづいて形成された星名が

最も多い。ナナツブシ、ナナチブシ（七つ星）

粟国島浜の末吉とよさん（大正15年生まれ）

「ナナチブシ、女4名、男3名、仲がよかった

らしい。ごはんでも7人でわけて」



特徴ある星名形成（沖縄・奄美）

(3) 構成する星の数に方角を加えた星名が八重山地方に広く形成された。

原 歌	訳
<small>ナナチフシ</small> ニシ七 ^シ 星ドウヨウ <small>テイ</small> 天ヌアージ ^{マイ} 前カラ <small>シイマ</small> 島ウタイデユチャラ <small>フン</small> 国ウタイデユチャラ バンヤ島ウタールヌ <small>フン</small> クリヤ国ウタールヌ ンバデイズユヤンドウ ユムデイズチニヤンドウ <small>ニシイ</small> <small>ホウ</small> 北ヌ方ニフンウトウシ <small>ウシイ</small> 丑ぬ方ニウッチエンドウ <small>マキイブドゥリイ</small> 巻 踊 シウンサ ユイ踊りシウンサ	北斗七星の星座は 天帝の大前から 島を指揮せと仰せられた 国を治めよと命ぜられたが 私の微力では島の指揮は出来ませぬ この星座では国の指図は不可能だと答えたら 不承知であったために 否といたので 北方に踏み落とされた 丑の方角に打遣られた 巻踊をしておるであろう 結い踊りをしておるようだ

表1 ムリ星ユンタ（その1 ニシ七つ星）（『八重山古謡（上）』より引用）

ニシナナチィブシィ（北七つ星）八重山では、おおぐま座の α 星、 β 星、 γ 星、 δ 星、 ε 星、 ζ 星、 η 星が全て地平線下に沈んでしまうことにより伝承形成された。

ニシナナチィブシィに続けて、南七星（パイナナチィブシィ）が沈み、ムリカ星（プレアデス星団）が島の真上を運行すると歌は続く。日の入り後、北七つ星が沈んでいき、続いて南七星（パイナナチィブシィ）（南斗六星）が沈み、明け方、ムリカ星（プレアデス星団）が南中してほぼ頭の上を通るという条件を満たした期間に歌の通りの星の見え方となる。

明け方太陽高度 -13 度の時間にプレアデス星団が南中しているという条件を考えると9月4日以降（1900年、石垣島の場合）となる。また、日の入り後太陽高度 -13 度において北七つ星がまだ沈んでいないとき（丑の方向におおぐま座 β 星が高度約8度であるときと仮定）という条件を考えると、9月15日までとなる。

（1900年、石垣島の場合） **したがって、歌の通りに見えるのは、1年のなかで9月4日～15日頃までの短い期間となる。**

そして、この星空景観は、沖縄のみで可能な景観であり、沖縄での伝承形成となった。

特徴ある星名形成（沖縄・奄美）

(3) トーシンミチブシ（唐船道星）

「トーシンミチブシヌ ニヌファブシ クウインリ クガニミチブシヌ チジティクィラン」

（北斗七星が北極星を食べようとしている。黄金三つ星が、そうはさせまいと北極星の周囲を固く守っている）（糸満市史編集委員会1991）

(4) トーシンカジブシ（唐船舵星）

唐船の舵に見立てた。金城誠氏が、うるま市浜比嘉島で記録した。（金城誠1984）

1 平取町(びらとりちょう)二風谷(にぶたに)の星名伝承

- ・萱野茂のアイヌ語辞典、
- ・やさしいアイヌ語(1)(2)講師萱野茂(萱野志朗氏より2024年10月)

2 日高地方の星名伝承(沙流川流域むかわ町を含む)

- ・新ひだか町静内との比較
- ・日高町福満(ふくみつ)の星名伝承
- ・アシリレラ氏より記録(2009年3月、2020年10月)



平取町を中心に日高地方の星名伝承から日本列島の星文化を考える

1 平取町二風谷 の星名伝承



↑ イユタニ

萱野茂二風谷アイヌ資料館

『萱野茂のアイヌ語辞典』に掲載されている星名一覧

星名	意味	注	ページ
アロスマンノチュー ar-onuman-nociw	宵の明星	アロスマン、ar-onuman：日暮れ、夕方	P40
イユタニノチュー iyutani-nociw	三つ星：オリオン座中央部の連星	イユタニ=杵 ノチュー=星 	P76
チヌカラノチュー ci=nukar-nociw	北極星		P310
トイタサオツ toyta-saot	北斗七星	トイタ=畑を耕す サオツ=逃げる→畑 時季になると逃げてしまう星	P326
ニサツチャウオツ nisat-sawot	明けの明星	ニサツチャウオツ カリ=明けの明星が 回る	P343
ピサクノカ pisakku noka	北斗七星	アイヌ アナクネ ピサクノカ シン ナ レベ“トイタサオツ”シコロ カア・イ エ トイタウシ アン コロ トオブ ヘ リカシ キラ クスア・イエ ヒ ネ=ア アイヌ民族は北斗七星の別の名を「畑耕しか ら逃げる」とも言う、畑時季になるとずつ と上へ逃げるのでそう言われるのだ。	P383- 384
マッコイワク mat-ko-iwak	夜這い星、流れ 星	マツ=妻 コ=それ イワク=帰る (妻の所へ) 通う	P423- 424
マッコイワツノチュー mat-ko-iwak-nociw	妻恋星、流れ星		P424
レンシペ ren-us-pe	三つ星（オリオン座）	棒杵星=イユタニノチュー	P476

地名	星名(宵の明星)	意味	出典
平取町 二風谷	アロヌマンノチュー ar-onuman-nociw	アロヌマン、ar-onuman: 日暮れ、夕方	『萱野茂のアイヌ語辞典』
北の方の アイヌ	スワラノチウ	栖原の漁場では、漁の最盛期になると、アイヌを昼夜の別なく働かせ、秋の日がとっぷり暮れて、東(ママ)の空に宵の明星がきらきら光る頃一と云いますから夜の九時頃にもなりましょうか、一その頃になつてからやつと休めの号令がかかつて、夕食にありつくことができたというので、『栖原の星』と名づけた」(知里1954)	知里真志保 「ユーカラの人々とその生活(2)」

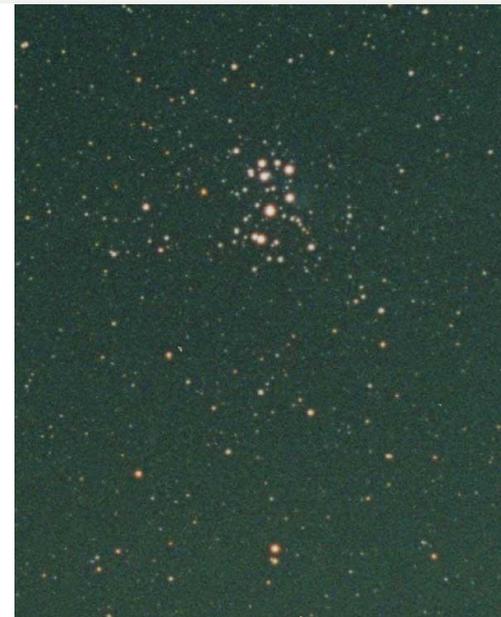
星名	萱野茂のアイヌ語辞典	やさしいアイヌ語(1)(2) (講師 萱野茂)※
北斗七星	トイタサオツ	<p>トイタサオツ</p> <p>トイタ:畑を耕す サオツ:逃げる</p> <p>「トイタサオツ」(北斗七星)は、畑をする時期になると高いところにあがっています。畑のないときはいいだけ低くなります。ですから、畑の時期になると逃げてしまう星、と呼んでいるのです。私は、一週間ぐらい前、「トイタサオツ」はどの辺だろうかと思ってみてみました。すると、かなり上のほうに上がっていました。本当に、畑の時には逃げるんだなあ、と思いました。</p>
北斗七星	ピサックノカ	ピサックノカ

※2024年10月萱野志朗氏より説明いただく

2 日高地方の星名伝承(沙流川流域むかわ町を含む)

・平取町二風谷と新ひだか町静内との比較

	二風谷	静内
星名	トイタサオツ	トイタサヲツ
意味する星	北斗七星	プレアデス星団



平取町二風谷の星名 オリオン座三つ星(萱野志朗氏より2024年10月)



星名	萱野茂のアイヌ語辞典	やさしいアイヌ語(1)(2)(講師 萱野茂)
オリオン座三つ星 	イユタニノチュー iyutani-nociw イユタニ=杵 ノチュー=  三つ星: オリオン座中央部の連星	イユタニノチュー 「イユタニ」(杵)を握ると上と下のほうに搗くところがあります。ですから、三星(みつぼし)のことを片手で持つ杵のような星ということで、「イユタニノチュー」といいます。
オリオン座三つ星	レヌシペ ren-us-pe	星が三つ並んで見える三星(みつぼし)(唐鋤星)があります。十一時十二時の夜中になって西南の方向に見えます。三星は「レヌシペ」と言います。「レヌシペ」は三つあるもの、という意味です。「レヌシペ」は「レン」と「ウシペ」が繋がってできた言葉です。レン:3人、ウシペ: ? 辞書には履物??

平取町二風谷と静内(オリオン座三つ星)

星名	平取町二風谷(萱野茂)	静内(葛野辰次郎)
オリオン座三つ星	イユタニノチュー iyutani-nociw イユタニ=杵 ノチュー=星 三つ星:オリオン座中央部の連星	イユタニ 三つ星 iyutani 杵 オリオン座のベルトの部分に 当たる
オリオン座三つ星	レヌシペ ren-us-pe	

平取町二風谷と静内(オリオン座三つ星)



星名	萱野茂のアイヌ語辞典	やさしいアイヌ語(1)(2)講師 萱野茂※
流れ星	マッコイワク mat-ko-iwak 夜這い星、流れ星 マツ=妻 コ=それ イワク=帰る (妻の所へ)通う	マツ コイワク 「マツ コイワク」は女の所へ夜這いに行く、あるいは妻の所へ行く星、という意味です。
流れ星	マッコイワツノチュー mat-ko-iwak-nociw 妻恋星、流れ星	

※2024年10月萱野志朗氏より説明いただく

ジョン バチラー氏から小島修介氏への手紙(大佛次郎
記念館所蔵)

手紙では、「ジョン バチラー」と表記

(多くは、ジョン・バチェラー) 1854～1944

平村ペンリウク氏(平取(びらとり)のコタンコロクル(村お
さ))(1832-1903) から、アイヌ語を教えてもらう。

1876年ウォルター・デニング氏、1879年～ ジョン バチラー氏

ジョン バチラー氏は、聖公会の宣教師ウォルター・デニング
氏の指導を受ける。

ジョン バチラー氏は、1879年9月、はじめて平取を訪問。ペン
リウク氏宅にてアイヌ語を学ぶ。

ジョンバチェラー氏から小島修介氏(函館市在住)への手紙

- ・ 星は総てノチウ 又はトンポと云ふ

(北尾注 トンポ(光れる小さなもの)(吉田1911))

- ・ アロヌマンノチウ又はアロノチウは暮の明星

- ・ ニサッサオツノチウは暁星

- ・ チヌカラクルは北斗星. 大熊星

- ・ マアクイワクノチウは流星

- ・ ムンスエプノチウはホーキ星

- ・ ノカベチ又はベエチンノカは天ノ川

- ・ ンリベクツケは北極光？

	ジョン バチラー氏 から小島修介氏へ の手紙	野尻抱影『日本星名 辞典』の記述
星	ノチウ	ノチウ
宵の明星	アロヌマンノチウ又 はアロノチウ	アロヌマン・ノチウ、 アロ・ノチウ
暁の明星	ニサッサオツノチウ	ニサッサオツ・ノチウ
北斗星	チヌカラクル	
北極星		チヌカラグル
流星	マアクイワクノチウ	マアクワク・ノチウ
彗星	ムンスエプノチウ	ムンスエブ・ノチウ
天の川	ノカベチ又はベエ チンノカ	ノカベチ、 ベエチンノカ

平村ペンリウク
氏からアイヌ語
を学んだことから
平取で伝えら
れていた星名と
思われる。

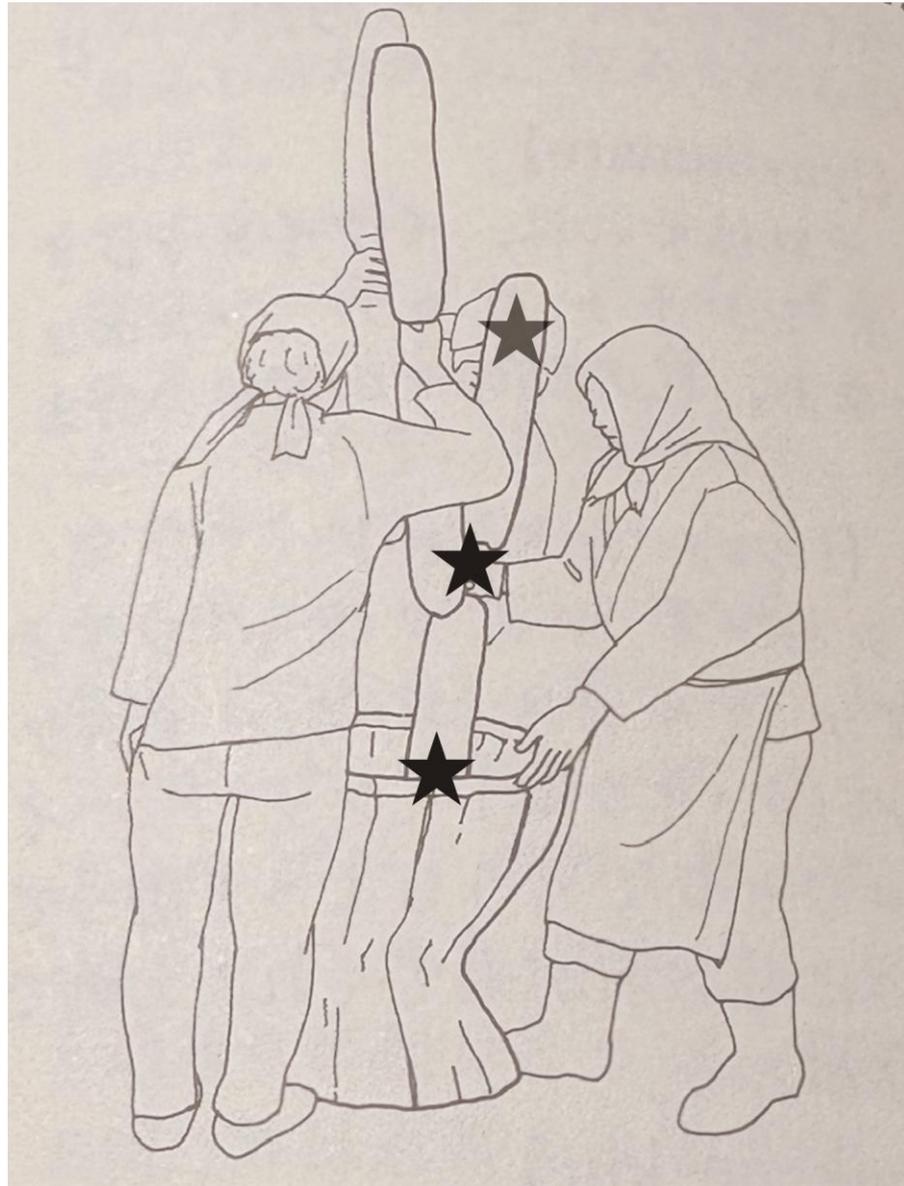
イユタニとニス

『萱野茂のアイヌ語辞典』

イユタニノチュー

『萱野茂のアイヌ語辞典』に北尾が
★★★を加筆

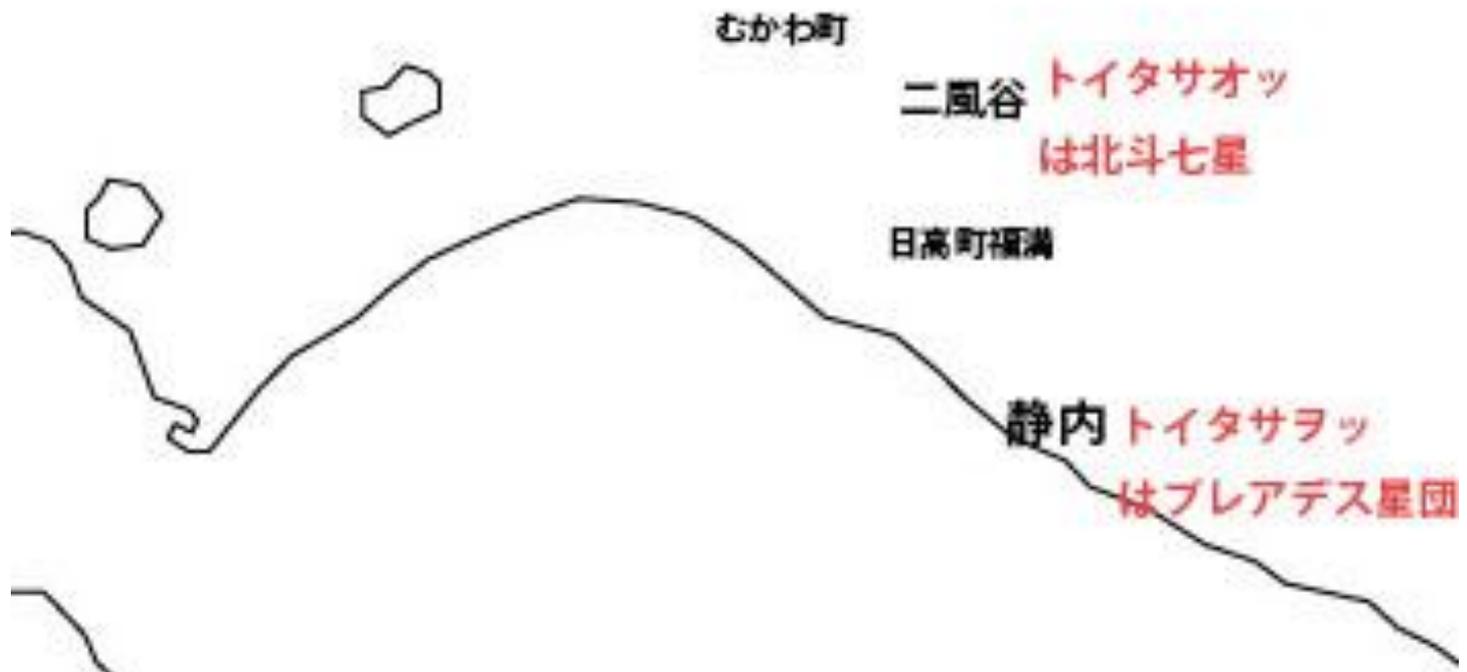
ニスの形は星名として伝えられていない。



2 日高地方の星名伝承

トイタサオツ: 北斗七星 (平取町二風谷)

トイタサヲツ: プレアデス星団 (新ひだか町静内)



ポイント1 二風谷で北斗七星の星名が、静内でプレアデス星団の星名となる。

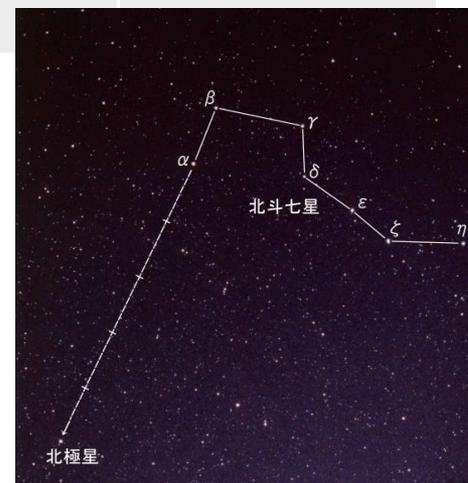
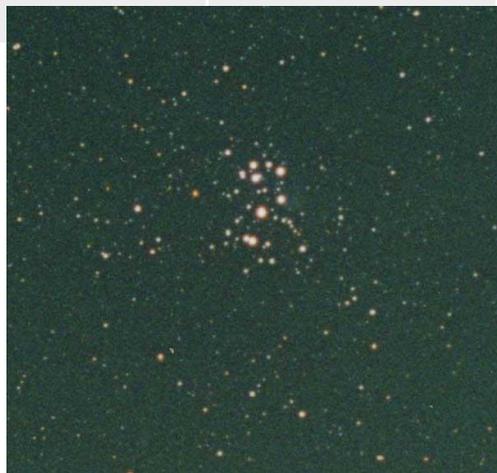
このような同じ星名で意味する星が変わる事例は日本列島にいくつかある。

例 日本列島におけるプレアデス星団の和名の変容

- ・ナナツボシという星名は、多くの場合、北斗七星を意味する。一部、大分県でプレアデス星団を意味するケースを記録。
- ・プレアデス星団を意味する六連星が岩手、宮城でオリオンに変容

ナナツボシがプレアデス星団の星名であるケース (ナナツボシは通例北斗七星を意味する)

地名	話者	プレアデス 星団	オリオン	北斗七星
大分県別府市亀川	寺山綾M40	ナナツボシ	ミツボシ	サカマスセイ
大分県別府市亀川	T4	ナナツボシ	ミツボシ	ホクトヒチセイ
大分県宇佐市安心 院町大	栗林保彦氏 S2	ナナツボシ		ホクトヒチセイ
大分県宇佐市四日 市町	江口清治氏 T9	ナナツボシ	ミツボシ	



プレアデス星団の星名「六連星(ムツラ、ムヅラ)」がオリオン三つ星、小三つ星の星名に変化

地名	プレアデス星団	オリオン
青森県下北郡風間浦村蛇浦	ムジラ、ムジナ (ムツラの転訛)	サンコウ
青森県下北郡風間浦村易国間	ムジナ (ムツラの転訛)	サンコウ
青森県八戸市新湊	ムヅナボシ	サンコウ
青森県三戸郡階上町小舟渡漁港	話者A 不明 話者B 不明	サンコウ(三つ星) ムヅラ(三つ星と小三つ星)
岩手県大船渡市赤崎町	ホーキボシ	ムヅラ
宮城県本吉郡唐桑町	モクサ	ムヅラ
茨城県北茨城市大津町	ムヅラ	サンボシ

日高地方の星名

(1) 日高町福満(ふくみつ)出身の平賀サダさん(1895頃-1972年)の伝えていた星名伝承。

- Marattosapa マラットサパ
- Iyutani イユタニ
- ermupu エレムプ

(2) 日高町福満出身、門別町富川(現 日高町)在住の鍋沢モトアンレク氏(1886-1967)

- Nisat-saot nochiw 夜明け星
- Annoski-nochiw kamuy 夜中星
- Aronuman nochiw kamuy 夕暮星。

(3) アシリレラ氏より記録(2009年3月、2020年10月)

・イユタニノチュウ(2009年の記録)

福島コハナフチ。静内、明治40年生まれ。

イユタニに似た星があった。(北尾注 イユタニ:杵)

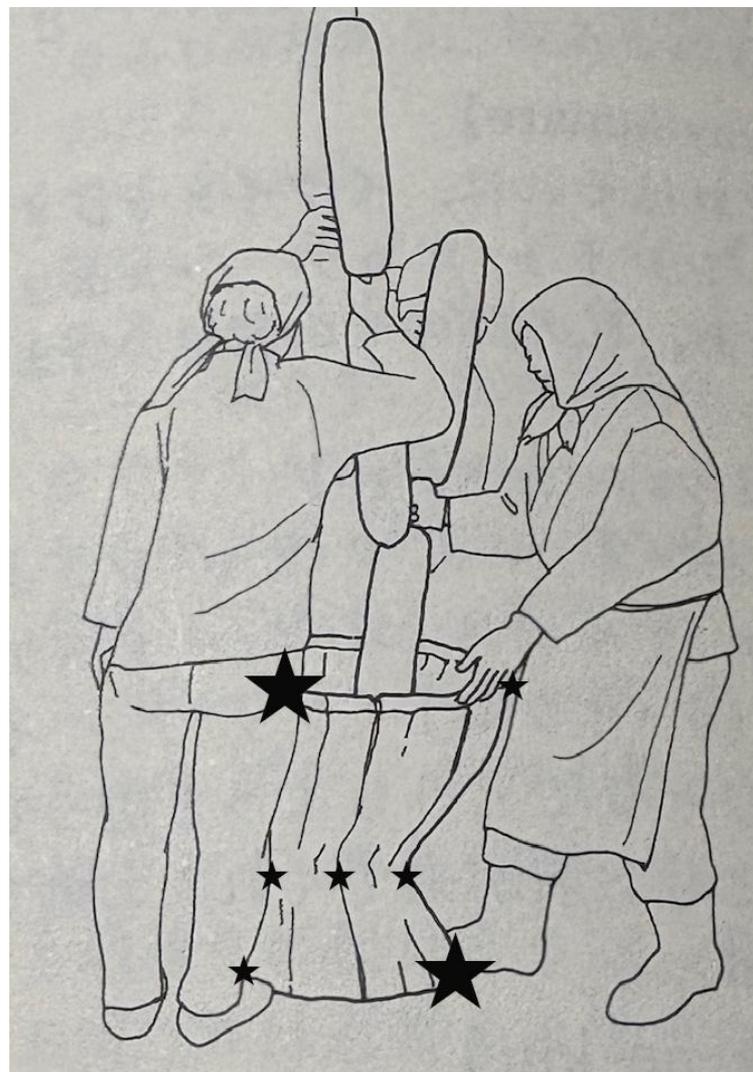
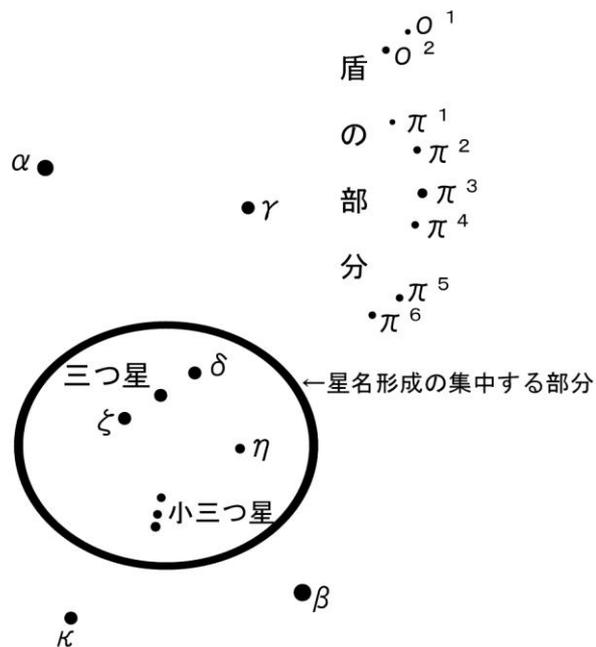
イユタニ→
萱野茂二風谷アイヌ
資料館所蔵



ところが、10月16日の調査で、

アシリレラさんは星座早見を元にニをひっくりかえした形はオリオン座三つ星、イユタニはオリオンの盾の部分と説明

右図のニスは反対でない→



ところが、10月16日の調査で、
 アシリレラさんは星座早見を元に
 ニスをひっくりかえした形はオリオン座全景
 イユタニはオリオンの盾の部分と説明
 右図のニスは反対でない→

ニス→

萱野茂二風谷アイヌ
 資料館所蔵



静内の星名

トイタサヲツ 北斗七星ではなくプレアデス星団

チコヤウケcikoyawke 宵の明星 葛野辰次郎氏

はヤウケの意味？ ヤは岡のこと。 チ：我々

(『アイヌのくらしと言葉2』 p207)

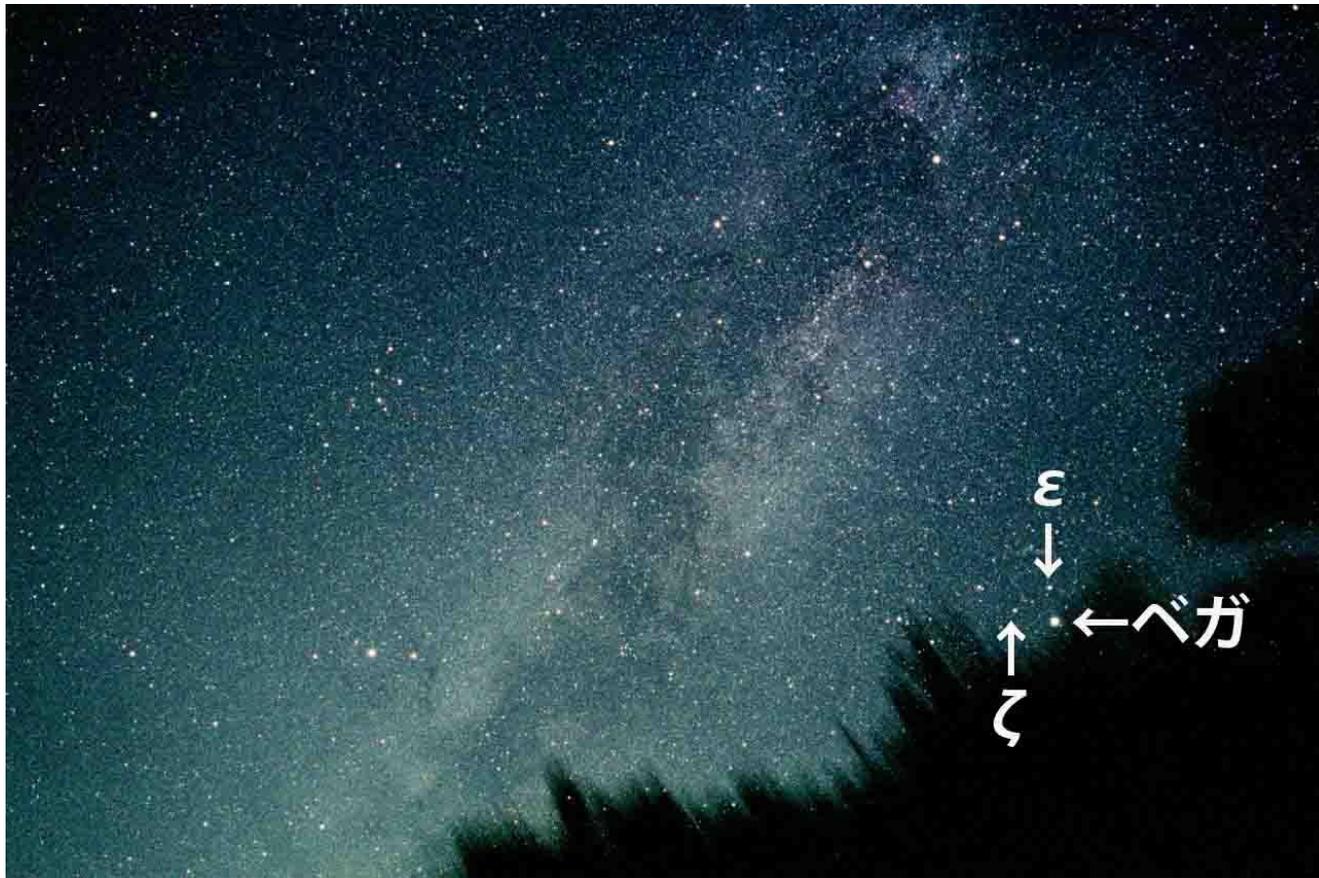
オカに向かって私たちがアテにするという意味か???????

末岡外美夫氏は、『アイヌの星』で、チコアツノチウ(我等・それに向かって・寄せる・星)・・・アテ星(アイヌの星、p278)

こと座ベガ、ε、ζの三角形に熊を描く(比較)

	星名	解説
田村すず子 『アイヌ語辞典』 福満(ふくみつ)出身の平賀サダさん (1895頃-1972年)	Marattosapa マラットサパ	星座名。天の川の西側にある男の星座。三つの星がちょうど熊の頭の 二つの目(ε、ζ) と 鼻(ベガ) のように三角形に並んでいる。東側にあるiyutaniイユタニはこれの妻。
末岡外美夫 『アイヌの星』	marattonoka nociwマラット ノカノチウ marattonoka マラットノカ	こと座ベガ: マラット(マラットは「殺した熊の頭」)、ε、ζ: 二股の枝の先につけたイナウ
末岡外美夫『人間 達のみた星座とで 伝承』	マラットノカノ チウ marattonoka nociw マラットノカ marattonoka	ベガ: マラット ε、ζ: 枝につけたイナウ マラットノカノチウが明け方の暁の北東の地平に姿を現すのは、12月の中頃からである。マラットノカノチウ(この場合ベガ一星を指す)が見えると獵運を祈願して盛大なイオマンテを行なう。前年のイオマンテで天に上ったマラットが暁天にその姿を現し・・・

イオマンテ 1月か2月の寒い時季に行なわれることが多い



1900年1月10日日の入り後60分(平取町)

(実際はベガ高度約20度、アルタイル約13度)

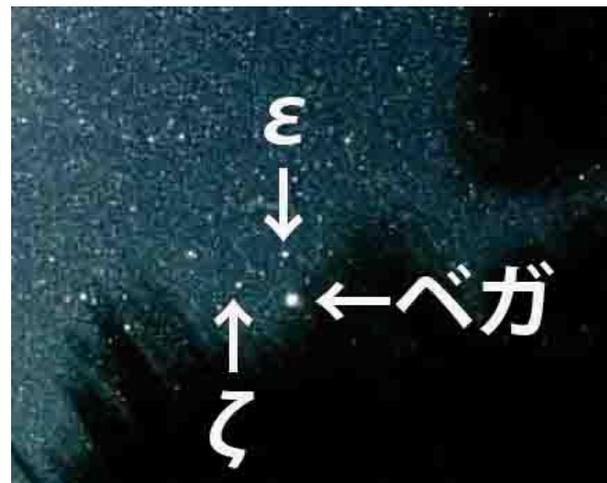
日没後と日の出前の2回、ベガを見ることができる。



1900年1月11日、日の出前約60分(平取町)
(実際はベガ高度約37度、アルタイル約6度)

平取町立二風谷アイヌ文化博物館(使用許可済)

三つの星がちょうど
熊の頭の二つの目(ε、
ζ)と鼻(ベガ)のように
三角形に並んでいる



イオマンテ3日目の早朝にケオマンテ(なきがら送り)

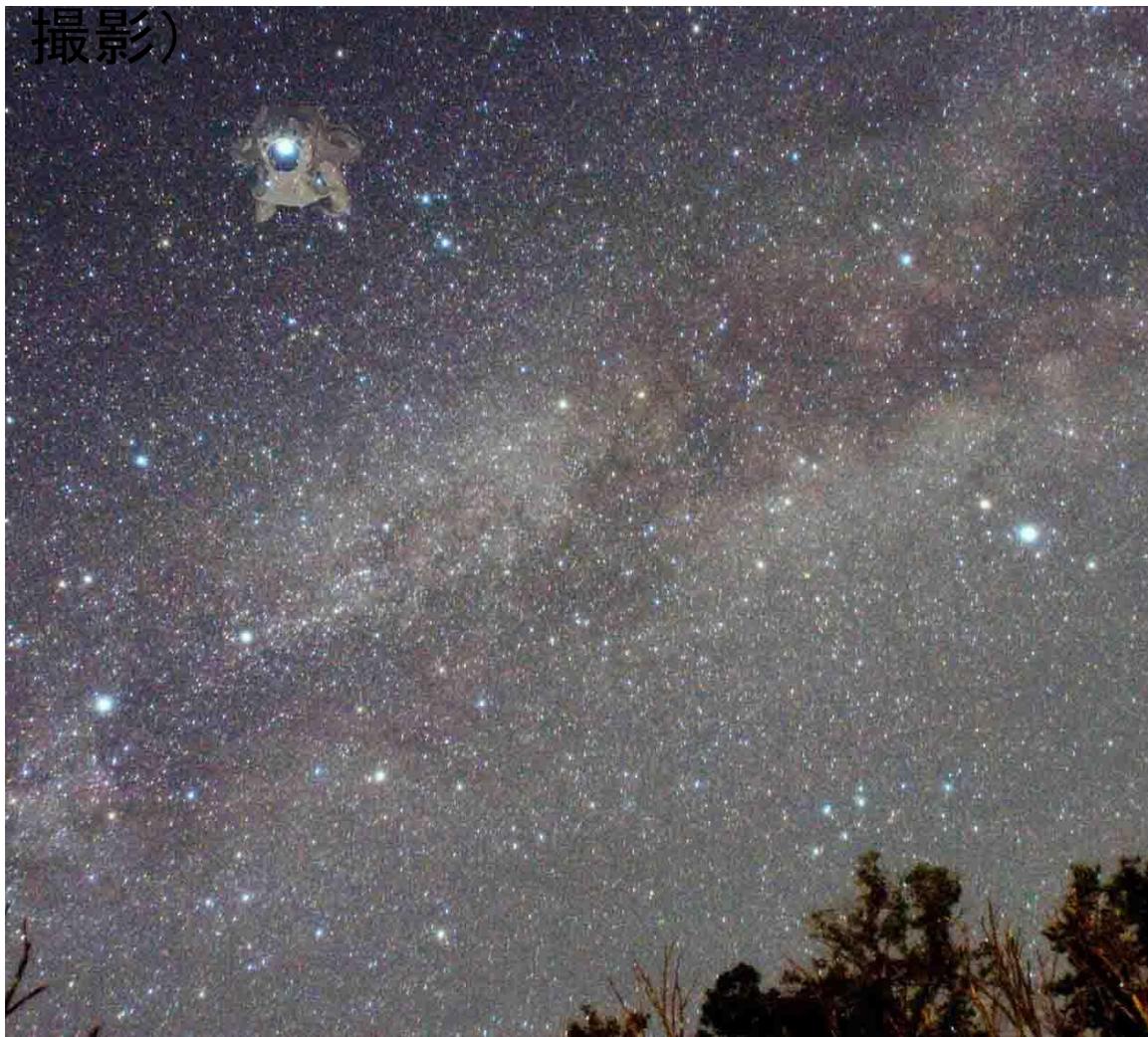


西の空(写真 湯村宜和氏撮影) 早朝の光景か、日没後の光景か、両方か？ 写真上は日没後

日没後西の空拡大



明け方の東空 熊が逆立ちになる(写真 渡辺誠氏
撮影)



拡大 東空 熊が逆立ちになる(写真 渡辺誠氏撮影)



平取町立二風谷アイヌ文化博物館(使用許可申請済)



← ?



← にイナウ

イオマンテ3日目の早朝にケオマンテ(なきがら送り)

福満(ふくみつ)出身の平賀サダ氏(通称サダモ氏)(1895頃-1972年)の伝承していた星名(赤文字 七夕の伝承影響)

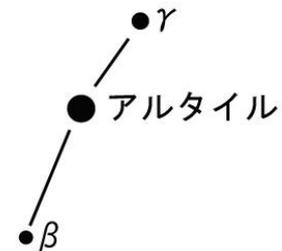
星名		解説
Marattosapa マラットサパ	こと座 ベガ、ε、 ζの三 角形	星座名。天の川の西側にある男の星座。三つの星がちょうど熊の頭の二つの目(ε、ζ)と鼻(ベガ)のように三角形に並んでいる。東側にあるiyutaniイユタニはこれの妻。
Iyutani イユタニ	わし座 アルタ イルと βγ	天の川の東側にある女の星座。平賀サダさんの伝承「三つまっすぐに並んで杵(きね)のようだから。西側にあるmarattosapaマラットサパはこれの夫。夫婦の神で、いつも女が夫を追っていく。旧暦の七月のお盆にだけ会える。雨が降ると水が増えて川を渡れない。女というものはこのように夫に根(こん)よく従わなければならないと言う」この二つの星座(北尾注 マラットサパとイユタニ)がたなばたの東側の女と西側の男だとサダモさんは説明している。

田村すず子氏著『アイヌ語辞典』には、福満(ふくみつ)出身の平賀サダさんによる解説、民話など7000件が掲載されている。そのひとつが、「マラットサパ」。

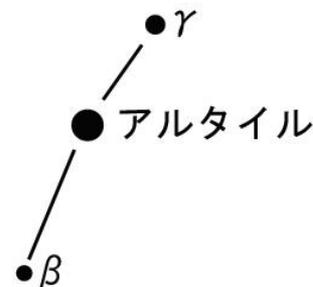
Marattosapa マラットサパ 星座名。天の川の西側にある男の星座。三つの星がちょうど熊の頭の二つの目と鼻のように三角形に並んでいる。

東側にあるiyutaniイユタニはこれの妻。←わし座アルタイルと β γ

イユタニ→
萱野茂二風谷
アイヌ資料館所蔵



ベガと $\epsilon\zeta$ (織女の子ども)ではなく、わし座アルタイルと $\beta\gamma$



・イヌカイボシ、インカイボシ(犬飼星)

平安時代中期の辞書である源順著『倭名類聚抄 天部第一』に、「牽牛 和名比古保之又以奴加比保之」とある。

いまは、九州で犬飼星を記録することができる。

北尾は、福岡県糸島市加布里にて、芥屋(けや)村(現、糸島市)出身の話者からインカイサンを記録。

「タナバタサン、天の川はさんで、イヌカイサン。インカイサン」

「タナバタサン、三つ三角形なってる。もうひとつ、インカイサンは、一列に並んでる。天の川はさんでる」

インカイサンは犬飼いさん。牽牛即ちわし座のアルタイルと一列に並んでいる β 星、 γ 星のこと。タナバタサンは、こと座ベガと ϵ 星、 ζ 星のこと。

沖縄本島 インソーヤブシ(犬伴星)

宮古島・・・牛、馬

ウスウマサダティブス(牛馬サダティ星)

牛と馬を連れて(サダティ)いる星。サダティとは「連れる」という意味。沖縄県平良市(現 宮古島市)(北尾によるアンケート調査)

日本列島の星名比較(ベガとε ζ、わし座アルタイルとβ γ)

	ベガとε ζ	わし座アルタイルとβ γ
アイヌ	マラットサパ 夫 熊 マラットノカノチウ マラットノカ	イユタニ 妻
大和	タナバタサン 女	犬飼星、 インカイサン 男 犬
沖縄・奄美	チュラアングワーブシ(美女星) ウヤキブシウ	沖縄本島 インソーヤブシ 犬 (犬伴星) 宮古島 ウスウマサダティブス (牛馬サダティ星) 牛、馬

日本列島の七夕型(?)伝承

	ベガとεζ	アルタイルとβγ	北斗七星 (おおぐま座 αβγδε ζη)	添え星 アルコ ル	プレアデス 星団の長 女ンミブス ハーニ
アイヌ 日高町福満	マラットサ パ夫	イユタニ 妻			
大和(熊本 天草島)※	タナバタサ マ 女	インカイ様 (犬飼様)男			
沖繩 奄美大 島			ナナツボ シ女(妹)	スブシ 男(兄)	
・奄美 伊良部 島前里 添※※					ンミブス ハーニ

※天草民俗誌より ※※東アジア民話データベース(ンミブスの長女、ンミブスハーニは地上に降りて水浴びをしている時、メタル主ぬ前に飛び衣を盗まれ、彼の妻になる。ある日子供が「かあちゃんぬ羽衣やミタル主ぬ前がうつばらぬ ひつぬ中んどう 我ちゃ見やい」と歌ったので飛び衣を見つけて一人で天に昇っていった。)話者池間ヤマ氏

福満(ふくみつ)出身の平賀サダさん(1895頃-1972年) の伝承していた星名(2)

星名		解説
ermupu エレムプ	オリオン座らしい。外の4つの星が倉の足(脚)	(星座の名)(直訳すると)ネズミの倉。 ermupu episne cikirihi horak wa oka kusu tarpa anak rir ruy nankor エレムプ エピン ネ チキリヒ ホラク ワ オカ クス タレパ アナク リンルイ ナンコロ 「ネズミの倉」 (星座)の沖の側の足が倒れているから今年 は海はしけてばかりいるにちがいない。

末岡外美夫『アイヌの星』『人間達のみた星座と伝承』

星名		解説
erumunpu エルムン・プ 『アイヌの 星』	かに座 $\gamma\delta\eta\theta$ M44	$\gamma\delta\eta\theta$ の四辺形:エルムン(ネズミ)の ρ (庫) 白くぼんやりしているプレセペ ϵ 星団(M44):エ ルムン(ネズミ)
erumu・npu エルムン・プ 『人間達の みた星座と 伝承』	かに座 $\gamma\delta\eta\theta$ M44	$\gamma\delta\eta\theta$ の四星:erumu・npu ねずみ・の倉 染みのように見えるプレーセペ:エルムン(ねず み)がたくわえたハル(haru食糧)、あるいはエ ルムン(ねずみ)そのものの集団 日食のときのねずみの貢献→倉

日本列島・プレアデス星団を歌う（仕事歌）

	アイヌ	大和	沖繩・奄美
星名	トイタサヲツ	スバル、スマル	ム°ニブス
伝承地	新ひだか町静内	愛媛県魚島	沖繩県多良間島
タイトル	トイタ、サヲウツ、ノチュウ、オルスペ		与那覇勢頭豊見親のに一り
歌い手	葛野次雄氏	藤本藤枝氏	浜川春子氏
歌	トイタ アンロウー、 トイタ アンロウ トイタ アンキヤクン テツ トイ ウスネ	天がせまいか よー、スマルボシ はなーらぶよ、海 がせまいか、エビ かごむーよー	うり°があとう からや よ む°にぶすば あがら しい
備考	といたさをっ、の歌をうたいながら、畑がやし 又供小(北尾注小供?)にも聞かし働き者は食べうると申しながらとの事です。	櫓漕ぎ唄	粟摺り歌



二風谷では、北斗七星トイタサオツの逃げていく様子を
伝承

ひとつの星名が多くの星名を意味する事例は他にもある

星名	萱野茂のアイヌ語辞典	やさしいアイヌ語(1)(2) (講師 萱野茂)※
北極星	チヌカラノチュー	チヌカラノチュー チ:我々 ヌカラ:見る ノチュー:星 「私たちが見る星」という意味。

※2024年10月萱野志朗氏より説明いただく

チヌカラ、チヌカルクルが意味する星の多様性

暮らしの中で、私たちを見ている、見守っている者、神は、宵の明星だけではなかった。明けの明星、北極星、北斗七星も私たちを見守ってくれているお方、そして、神であった。見守ってくれている神即ち星を目当てに生きた。

①宵の明星

◎吉田巖氏による記述

・アルノマンノチウ一名チヌカラク(吉田1911)

◎末岡外美夫氏による記録

・レツパンチヌカルコル(IV)(末岡1979)

rep an ci nucar kor

沖 において 我等 見る 者=カムイ 「沖のアテ星」

・チヌカルクル 末岡外美夫氏が栗山国四郎氏他より記録した伝承にあるチヌカルクルについて宵の明星と記している。(末岡2009)

②暁の明星(明けの明星)

・チヌカルクル ci・nukar・kur(ci:我等を nukar:見守る kur:者)(末岡1979)

③北極星(こぐま座 α 星)

◎萱野茂氏による記述(平取町二風谷)

チヌカラノチュー【ci=nukar-nociw】北極星(萱野2002)

◎スズサップノ良子氏による(2024年5月11日) 千歳
チヌカラクル チ:私たちが ヌカラ:見る クル:お方

④北斗七星(おおぐま座 $\alpha \beta \gamma \delta \epsilon \zeta \eta$)

◎蝦夷方言藻汐草

北斗 チヌカルグル(上原1804)

◎吉田巖氏による記述

ちぬからくるかむい(帯広町伏古(フシコ))北斗七星」(吉田
1989)

◎末岡外美夫氏による記録

チヌカルクル大熊座 $\alpha \beta \gamma \delta \epsilon \zeta \eta$ cinukarkur(ci:われら
-人間-のnukar:見る kur:神)「われら人間の見る神」(末岡
1979)

⑤その他

◎吉田巖氏による記述

ちぬからくるのちう(幕別町白人(チロット)) 星の名(吉田1989)。本事例は「星の名」と記されており、どの星を意味するかは不明。

引用文献

吉田1911…吉田巖「星に関するアイヌの傳説」『人類学雑誌
第二十七卷第七號』東京人類學會、1911、pp.396-401。

知里1954…知里真志保「ユーカラの人々とその生活(2)」
『季刊歴史家第三號』北海道歴史家協議会、1954、p.50。

門別町1969…門別町郷土史研究会『アイヌの叙事詩』、
1969、pp.30-51

野尻1973…野尻抱影『日本星名辞典』東京堂出版1973

金城1984…金城誠「浜・比嘉で拾った星の方言名」『やちむん第8
号』やちむん会、1984、pp.62-69。

ネフスキー1991…ニコライ・ネフスキー・魚井一由訳『アイヌ・
フォークロア』北海道出版企画センター、1991、
pp.126-141。pp.228-235。

糸満市史編集委員会1991…糸満市史編集委員会『糸満市史資料編12 民俗資料』糸満市役所、1991、pp.373-374。

萱野2002…萱野茂『萱野茂のアイヌ語辞典 増補版』三省堂、2002、p.310 p.326 p.383-384

北尾C…北尾による現地調査

北尾AC…北尾によるアンケート調査

質疑応答のための資料

静内の星名

ニサッサオツ nifat-saot 明け方に - 退去する 明けの明星

(『アイヌのくらしと言葉2』 p207)

イユタニ 三つ星 iyutani 杓 オリオン座のベルトの部分に当たる

静内の星名

それから、あの九曜星とか、なんとかって星、いわんかな。シャモの人、九曜星って、俺はまあ、そうと聞いたんだが、あの星は九曜だっていうんだ。あの一何んてゆったらいいべな。こう細長い達磨さんのような格好した星。こう、コチャコチャコチャと塊った星、あるんだ。いってるんだよ。あれがトイタサオッってゆってるの。・

(『アイヌのくらしと言葉2』 p207)

葛野辰次郎氏は、北斗七星の星名を伝えていなかった。

(アシリレラさん、静内の高田エカシはピサックノチュウ)

ススランペツ 葛野次雄さんも覚えていた星名。しかし、
どれを意味するかわからない。天の川の星????

葛野辰次郎さん「ススランペツという星はどこにあるの
かわかんない」「ススランペツという星があるんだそう
だ。そのススランペツとう星から、12の靈魂
が・・・」「下がってきたり、上がってきたりしてるん
だってこうゆってるの」「うーん。東側から下ってきて、
西側さ上っていくの」

(『アイヌのくらしと言葉2』 p208)

◆川での星

スズサップノ良子氏による
チヌカラクル 北極星

チ：私たちが ヌカラ：見る
クル：お方

シコツ川（千歳川）から石狩川、日本海へ。



スズサップノ良子氏、北尾。寮美千子氏
(2024年5月11日)



日本列島での川 で星を目標に

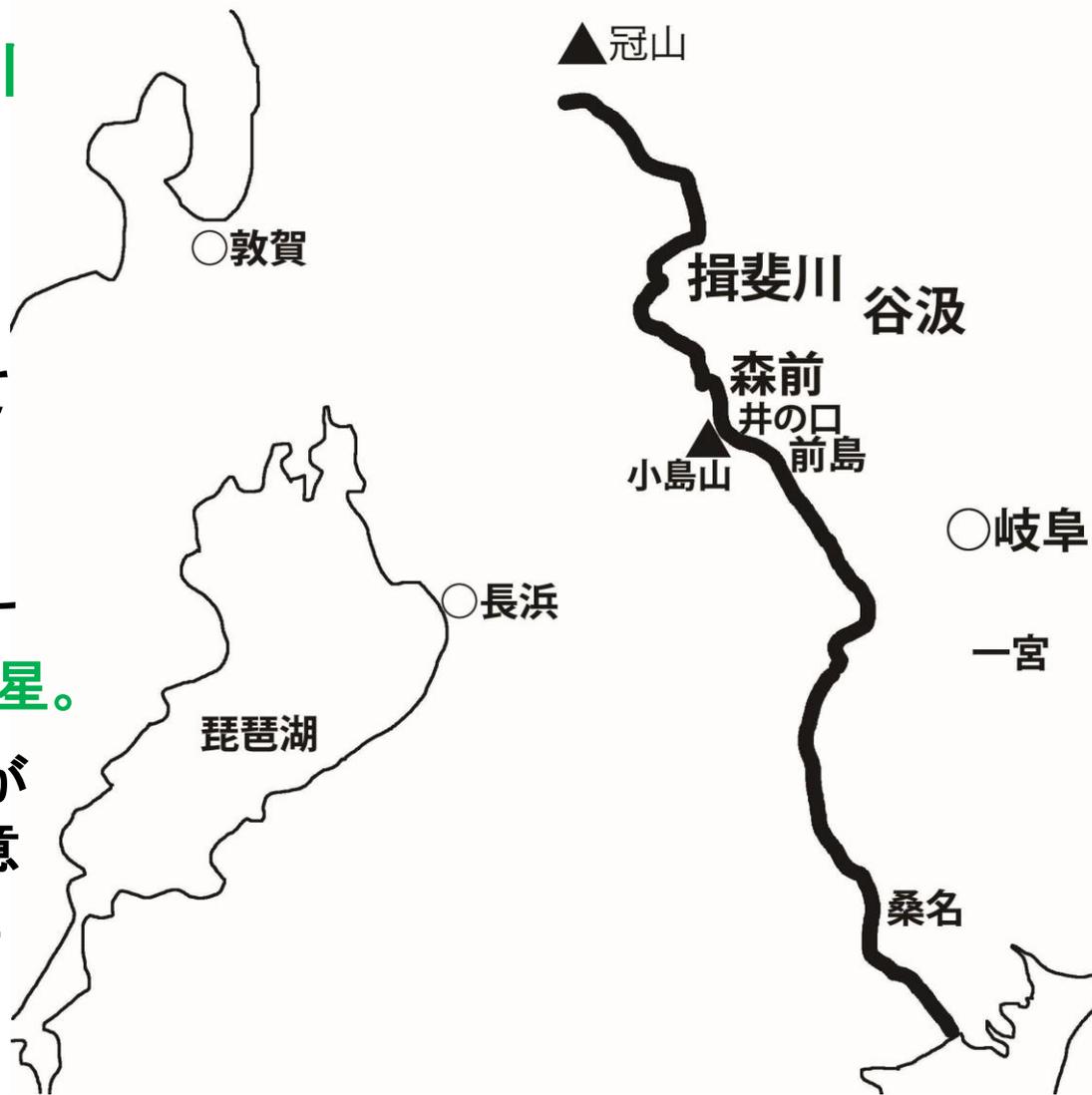
岐阜県の事例

揖斐川は蛇行している。進む方向が南とは限らない。

南の方角を確認するために、**絵の具星**。

ただし、「えのぐ」が「絵の具」以外を意味していた可能性がある。

職人言葉??



2024年10月撮影

葛野次雄さんによる「トイタ サヲウツ ノチュウ オルスぺ」

トイタ アンロウー、トイタ アンロウ (畠たがやそう、畠たがやそう)

トイタ アンキ ヤクン (畠たがやしますなら) / テツ トイ ウス ネ (手に土付くわ) / テツ トイ ウス キヤクン (手に土つくならば) / ヤシケ アンキ ネ (洗面致しましょう) / ヤシケ アンキ ヤクン (洗面致しますなら) / モウム アンキ ネ (流れ致しますよ) / モウム アンキ ヤクン (流れますなら) / ペウツ チャ ウス キナ アヤイペカネ (川岸に生る草にすがりましょう)

ペウツ チャ ウス キナ (川岸に生える草に) / アヤイペカ キヤクン (すがりますなら) / テツ ツエ ワ (手切れるわ) / テウツツエ キヤクン アンシナ キワ (手が切れますなら、ほうだい(ママ)しましょう) / アンシナ キヤクン (ほうだい致すなら) / タシロ コル キワ (山刀もって) / アタウケ ワ (切ったぎるわ)



プレアデス星団トイタサオツの伝承

表2 プレアデス星団の伝承の多様性

	星に関するアイヌの傳説(吉田)	葛野辰次郎氏のノート2(静内)	アイヌ民話集(更科源藏)	アイヌ民話集(更科源藏)	アイヌ古事典土記資料(吉田)	アイヌの星(末岡外美夫)	人間達のみた星座と伝承(末岡)
話者	膽辰有珠アイヌの口誦	静内、葛野辰次郎氏	釧路屈斜路、猪狩ノクマ姥伝承	旭川、川村ムイサシマツ氏	有珠郡有珠村、ニ・ヨツテキ氏	宮本ヌマテ姫(旭川近文) 栗山国四郎氏(旭川近文)	M・M他(北尾注:おそらく「アイヌの星」と同)
タイトル		トイタ、サラウツ、ノチュウ、オルスベ(島たがやすときに逃げる星の話)	強情星		六星(ユワン・ノチウ)の昔ばなし		
星名	ユワンノチウ	トイタサラウツノチュウ			ユワン・ノチウ	アルワンノチウ、イワンノチウ	トランネノチウ、イワンノチウ
助言1	男 トイタアンロー (畑をおこませうね)	神様方 トイタ アンロー、トイタ アンロウ (島たがやす、島たがやす)	三人の男 毎日ぶらぶら遊んでばかりいないで、少しは畑でも耕したらどうだ。	末娘 姉は畑をすることが嫌いだ、末娘だけはよく働いて、姉達に「畑やるべし」。	他の一人の女 昔、6人の女がいた。5人の女、新い粟をたべて甘いといった。他の1人の女、それだから働くがよいといった。	一人のまじめな若者 毎日ぶらぶら遊んでいないで、畑でも耕したらどうだ。いくら化粧しても、逃げ嫁は嫁のもらい手がないぞ。	一人のまじめな若者 毎日ぶらぶら遊んでいないで、畑でも耕したらどうだ。いくら化粧しても、逃げ嫁は嫁のもらい手がないぞ。
反論1	女 セセキアンワフケ (畑をおこしたら暑いだらうな)	神様方 の娘達 トイタ アンキ ヤクン (島たがやしますなら) テッ トイ ウスネ (手に土付くわ)	六人の娘 いやなこった、畑なんておこしたらこの綺麗な手きたなくなるワヨ。	五人の姉 畑なんかやったら手よごれるわ。	五人の女 すると5人働けば暑いと問答がはじまった。	七人の娘 島など耕したら暑く汗は出るし、手も汚れるよ。	七人の娘 畑など耕したら暑くて汗は出るし、手も汚れるよ。
助言2	男 セセキアンコ、シュサンコエン (暑くあつたら水浴びたらえいでせう)	神様方 テッ トイ ウス キヤクン (手に土ついたらば) ヤシケ アンキネ (洗面致しよ)	三人の男 きたなくなったら、川へ行行って洗ったらいいでないか。	末娘 よごれたら川で洗ったらよかべに。	他の一人の女 暑けりや水あびる。	一人のまじめな若者 汚れたら川で水浴びしたらいいじゃないか。	一人のまじめな若者 汚れたら川で水浴びしたらいいじゃないか。
反論2	女 シュサンコ、モンアムワフケ(水浴びたら流されてひどいだらう)	娘達 ヤシケ アンキ ヤクン (洗面致しますなら) モウム アンキネ(流れ致しますよ)	六人の娘 川なんかで手洗ったら、川へおちて流されるよ。	五人の姉 そんなことしたら川さおちるべ。	五人の女 水あびれば流れる。	七人の娘 水浴びしたら、流されてひどい目に逢うから嫌だ。	七人の娘 水浴びしたら、流されてひどい目にあうから嫌だ。
助言3	男 モンアンコ、シュブツキ、シンリチ、アアニ、エアイクバ(流れたら、葦の根、抓んだら、よいでせうよ)	神様方 モウム アンキ ヤクン(流れますなら) ペウツ チャ ウス キナ アヤイペカネ(川岸に生る草にすがりましよう)	三人の男 流されたら、草の葉につかまってあがればいいじゃないか。	末娘 落ちたら柳の木さつかまれ。	他の一人の女 流れたら葦の根にとりつけ。	一人のまじめな若者 流されそうになったら、葦の根につかまればいいじゃないか。	一人のまじめな若者 流されそうになったら、葦の根につかまればいいじゃないか。

反論3	女 シブッキ、シンリチ、アアニコ、テッキ、トウエ、ハウケ(葦の根、抓んだら、手を切るだらうさ)	娘達 ベウツ チヤ ウス キナ(川岸に生える草こ) アヤイベカ キヤクン(すがりますなら) テツ ツエ ワ(手切れるわ)	六人の娘 とんでもない草の葉になんかつかまったら手がきれるよ。	五人の姉 枝おれて流れる。	五人の女 葦の根にとりついたら手を切る。	七人の娘 手が切れて、痛いよ。	七人の娘 手が切れて、痛いよ。
助言4	男 テッキ、トウエコ、アシナシナ(手が、切れたら、結んだらえいでせう)	神様方 テウツ ツエ キヤクン アシナシナキワ(手切れますなら、ほうだい(ママ)しましょう) (アシナシナネほうだいしましょう)	三人の男 手がきれたら、しばったらよかべ。	末娘 流れたら泳いで上げばよい。	他の一人の女 手を切ったら、からごけ。	一人のまじめな若者 切れたら布で縛って、手当すればよい。	一人のまじめな若者 切れたら布で縛って、手当すればよい。
反論4	女 アシナシナコ、タシラキ、タシラキ、タシラキワケ(手を結んでも胸が、どきどきどきして苦しいわ)	娘達 アシナシナ キヤクン(ほうだい 致すなら) タシラ コル キワ(山刀もって) アタウケ ワ(切ったぎるわ)	六人の娘 傷をしばっても、胸がどきどきしてせつないよ。	五人の姉 星になればだまっていれていゝな。	五人の女 からごえたら痛い。	七人の娘 傷を縛っても、胸がどきどきして、せつないよ。ああ、星になりたいよ。星なら何もしないでいいだろうからね。	七人の娘 傷を縛っても、胸がどきどきして、せつないよ。ああ、星になりたいよ。星なら何もしないでいいだろうからね。
助言5					他の一人の女 痛けりやほごせ。		
反論5					五人の女 ほごしたら、風がはいると。		
結果		神代時代に、神様方の娘達 皇たがやす事をきらって此の様な事を申しましたなら、神様方お前達そんなに皇たがやす事きらいなら天空に張り付けてやるので下界に皇たがやす間わ(ママ)出て来んでないと云う。此の姉妹八人と云う。	この強情者！ 三人の男は怒って女たちを追わせた。(中略) 今でもすばる星は蜘蛛の忙しい夏の間おぼれていて、冬になって蜘蛛が終わると東の空に現われてくる。そして、それを追ってオリオンの三星が空このぼってくるのは、強情者の女と、それを助ける三人兄弟の姿。	神様この姉妹を星にした。畑いやだから冬でないとして出てこない。	とうとう六人ながら六星に化した。このような怠け者だから、ちょうど今時分の畑仕事にこの星は、ここに出ない。また秋入がすすんでから、出てやっと思えるのである。	星になった七人の娘はアルワンノチュウと呼ばれ、畑仕事の終わった秋の終り頃から寒く冬空に輝くようになったが、七人の娘のうち一番下の娘は自分の行いを恥じて、両手で顔を蔽ってしまった。(中略) イワンノチュウ(六つ星)というよび方は、ずっと後になってきたものだ。	星になった七人娘はランネノチュウ(七つ星)と呼ばれ、アイヌモシの畑仕事が終わる晩秋の暮れから天を昇って、寒く冬空に輝くようになった。七人娘のうち、一番年下の娘は自分の行いを恥じて、両手で顔を蔽ってしまった。(中略) イワンノチュウ(六つ星)というよび方は、ずっと後になってきたものだ。

鍋沢モトアンレク氏の伝承していた星、宇宙観

鍋沢元蔵(1886～1967)

平賀(現在の日高町福満)出身

富川(とみかわ)にて旅館を営む

引用文献

門別町郷土史研究会『アイヌの叙事詩』、1969、
pp. 30-51。

(3) 鍋沢モトアンレク氏が伝えていた夜明け星、夜中星、夕暮星

宵の明星、夜中星、明けの明星が登場する事例として、鍋沢モトアンレク氏の「KAMUY OYNA 神伝」を以下に引用する²⁰⁾。夜明け星、夜中星、夕暮星が登場し、5人の女の神は、姉妹の関係にある。上から1番目は「Nisat-saot nochiw 夜明け星」、2番目は Annoski-nochiw kamuy 夜中星、3番目は Aronuman nochiw kamuy 夕暮星、4番目は、Kunne-chup-kamuy 月、5番目は Tokap-chup-kamuy 日（太陽）である。「KAMUY OYNA 神伝」の注には、次のように記されている。

・nisat : 朝 cha:口 ot:にある、早朝の ・ar:全 onuman : 夕 nochiu : 星、夕の星
・an : 夜 noshki : 真中 nochiu : 星 「真夜中に天の中央、われわれの頭の真上はるかに見える星だという。スバル星かという」

しかし、スバルが夜中に見える時期は限られた期間で、夜中星ではないと考える。

<p>sinis kanto epunkine kamuy iwan poho kor ruwe-ne, hoski poho</p>	<p>最高の天国を 支配する神は 六人の子を 持っていたのである, はじめの子は</p>
<p>okkayo kamuy ne ruwe-ne re kor katu Kantori kato kamuy ne ruwe-ne,</p>	<p>男の神 なので その名は カントリカトカムイ なのである,</p>

mosima anak menoko kamuy asiknep kamuy ne ruwe-ne, kiyanne kamuy	ほかには 女の神 五人の神が いたのである, 年上の神は
Nisat-saot nochiw ne ruwe-ne, iyotutanup Annoski-nochiw kamuy ne ruwe-ne,	夜明け星の神 なのである つぎは 夜中星の神 なのである

otutan up	つぎは
Aronuman nochiw kamuy	夕暮星の神
iyotutanup	つぎは
Kunne-chup-kamuy	月の神
iyotutanup	つぎは
Tokap-chup-kamuy	日の神の
iyotta pon kamuy	一番小さい神が
a-ne ruwe-ne.	わたしなのです。
Nehi or ta	それで
Kamuy utara	神々たち

<p>uekarpa wa ukoramkor nen nam ora aynu-mosir ta pase kamuy</p>	<p>互いに集まって 相談し 誰を 人間世界に 重き神</p>
<p>kor, a poho a-resure ki ya kamuy utar e-ukoinin- raypa kane,</p>	<p>の子を 育てさせたらよいか 神々たちは お互いにどうするか 相談した,</p>

ki rok awa, chiesarama a-iekarkar wa e-poro panko a-resupa pito	そうしたら わたしが 選ばれて お身が大きくなるまで 育てのお身を
a-resu katu nehi tapan na. Na sama ta, tane anakne aynu-mosir	養育したこと なのです。 さて, もうすでに 人間世界に
a-esiniwka wa patek somo ne aetonpi otte eyaku korpe a-ne ruwe-ne,	わたしは飽いてしまった ばかりでなく 下界を輝かせる 役目をもつ われなのです

(4)「太陽神と星神」「人間の始祖神」「KAMUY OYNA 神伝」に登場する明けの明星、宵の明星、夜中の星についての比較

次の文献をもとに、姉妹としての「宵の明星、夜中（夜半）の星、明けの明星」について比較した。

- ・太陽神と星神、人間の始祖神：ニコライ・ネフスキー・魚井一由訳『アイヌ・フォークロア』北海道出版企画センター
- ・KAMUY OYNA：門別町郷土史研究会『アイヌの叙事詩』

その結果、「太陽神と星神」「KAMUY OYNA 神伝」では、上から、「明けの明星」「夜中の星」「宵の明星」であった。「人間の始祖神」では最も年上が「宵の明星」であり、妹が「夜半の星」。さらに、「夜半の星」の妹が「暁の明星」であった。

	太陽神と星神	人間の始祖神	KAMUY OYNA 神伝
	Н и к о л а й Н е в с к и й	Н и к о л а й Н е в с к и й	鍋沢モトアンレク
三番 目	aro-numan-nochiw 宵 の明星	nishat-shaot-kamui 暁 の明星の神	Aronuman nochiw kamuy 夕暮星の神
二番 目	an-noshki-nochiu 真 夜中の星	an-noshki-nochiu 夜半 の星	Annoski-nochiw kamuy 夜 中星の神
一番 上の 姉	nisat-sawot-kamui 明の明星の神	Aro-numa-nochiu 宵の 明星	Nisat-saot nochiw 夜明 け星の神*

表 1 4 姉妹としての宵の明星、真夜中の星、明けの明星

※KAMUY OYNA では、「kiyanne kamuy 年上の神は Nisat-saot nochiw」というように Nisat-saot nochiw は神であると明記されている。

「アシリレラさん、萱野志朗さんの伝えていた月の話、星名伝承 2009年と2024年の比較」

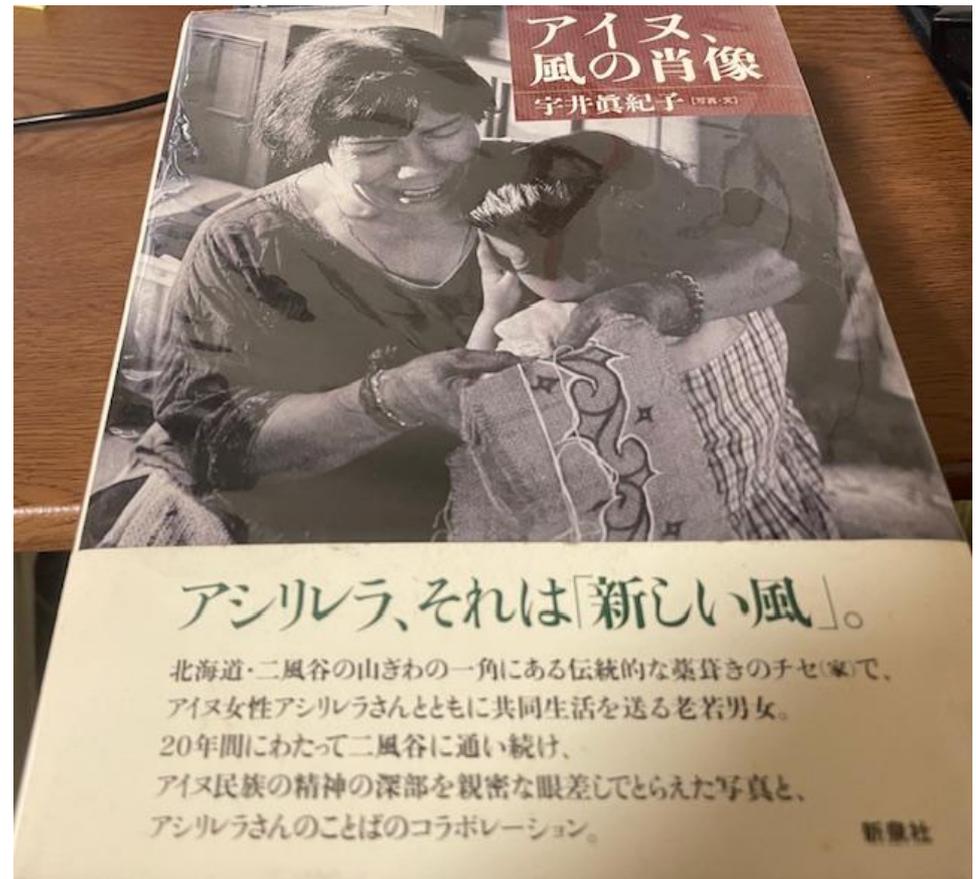
話者 アシリレラさん
日本名 山道康子さん
(昭和21年生まれ)

2009年3月10日記録

2024年10月16日記録

.....

- ・メールで連絡しても返事がなく、宇井真紀子氏(『アイヌ風の肖像』の著者)のアドバイスで手紙を書く。
- ・手紙のやりとりで、前回調査記録が間違いないことを確認。
- ・10月16日訪問のアポイントをとる。



アシリレラ、それは「新しい風」。

北海道・二風谷の山ぎわの一角にある伝統的な薬茸きのちせ(家)で、
アイヌ女性アシリレラさんとともに共同生活を送る老若男女。
20年間にわたって二風谷に通い続け、
アイヌ民族の精神の深部を親密な眼差しでとらえた写真と、
アシリレラさんのことばのコラボレーション。

新泉社

月の話(最初は「星になった少年の話」と語り始めた)

2024年10月16日記録アシリレラさん

(録音文字起こし 北尾浩一、2024年12月4日修正)

ある日のこと、おばあちゃんが山菜とりにいくのに、
(その少年に) お留守番を頼んでいった。

「その少年は退屈で、いろりばたをたたいていたが、お水を汲んでおいてねと頼んでいった」

「水を汲むって、いろりばたの柱があるところをたたいて、『いいなあおまえはなにもしないで、ここにいて』と文句をいっぱい言ってたたいた。「いろりばたをぽんぽん、いいなあおまえは火のそばでいいなあ、とたたいた」

「水を汲んでこないと何もつくれないし、て、桶を持ってピサックを持って玄関に立った」

「玄関に立ったら、柱にめがけて、柱はいいなあ、柱はここで立っているだけだから、と文句をいっぱい言って。桶をもってでて川にいきました」

「川に行ったら、ナマズがいて、魚がいて、なまズの顔を見ておまえの顔はみっともない顔をして」と悪口を言って、「どじょうにも文句言って」。

おばあちゃん帰ってきて、孫はどこに行ったか、ばけつがないから川のどこに居ると思って川に行って、「なまずさん、うちの孫を知りませんか」

なまずさん「知らない、自分のことをひどい顔だとか悪口を言ってから教えてあげない」

おばあさん「どじょうさん知らない？」

どじょう「知らない、自分のことぬるぬると言うから教えてあげない」

おばあさん「孫はそんなことを言ったのですか。どうしようかなあ、だれにきけばよいのだろう」

そしたら、サケがあがってきた。サケは、こう言いました。

サケ「ぼくのことをねカムイチップとあの子は言ったんだよ。カムイチップって言うてくれたから教えてあげるよ。あの子はね、水汲むのをなまけてね、あちこちにやつあたりして歩いてたから、神様が怒ってお月さまのなかにいれちゃったのよ」「お月さまのなかに、ピサックをもっておけを持っている子がいるでしょう。あなたの孫ですよ」

おばあさん「おおーなんということでしょうか、いじめるつもりで水汲みしなさいといったわけでない」

泣きながらおばあちゃんは家に戻って新しい水を汲んで料理をした。

お月さま出るたびに手をあわせました。

月の話 萱野志朗さんの話—からっぽやみ(なまけもの、とらんね)の少年(録音文字起こし 北尾浩一、2024年12月5日修正)

ある少年が、水汲みに母親からいいつけられて、行くわけです。そして、いちばんはじめにイヌンペと言って、いろりのまわりにある炉縁です。ろぶちを水汲みに行く柄杓でたたいて、イヌンペはそこでねっこらがついているだけでいいなあ。

次は柱イクシペをぽんぽんとたたいて、この柱はただ立ってるだけでいいなあ。

次に、どじょう、どじょうのことを「ちちら」というのですけれども、どじょうを見てその口のほそいものと悪口いった。次にマスにあう。ますのことをサキペというのですよ。夏にたべるものといういみ。マスは、身が柔らかいのです。その身のやわらかいすみみたいな、と悪口を言う。

次にサケに会う。サケともいいますが、北海道ではだいたいシエケ。しゃけ(さけ)に会ったら、さけはアイヌ語ではかむいちっぷ。カムイチップに向かってああ神の魚よとよびかけて。で、そのあと、どういうわけか月に連れていかれて。だれが連れて行ったか。

母親が息子をさがしに行く。だれにきいてもみんな悪口いっておしえてくれない。どじょうにきいても、教えてくれない。マスに聞いても身のやわらかいやつと悪口言ったから教えてくれない。ほんとうはやわらかくておいしいのですけれど。

鮭はカムイチップと言われたから教えてくれる。悪態ついて、なまけものだから月に連れて行かれたんだ。なまけものの少年はいまでも天秤棒かついで月にいるんだよというはなし。じっさいに民話でそういう話したのです。

両側に水。それがからっぽやみの少年という名前の話。

K「男の子ですね。」と聞くと、W「だったような気がします」

以上 月の話 萱野志朗さんの話

	金田一京助『ユーカラ』事例1	更科源藏『アイヌ民話集』事例2	久保寺逸齋『アイヌの昔話』事例3	知里真志保『アイヌの神話』事例4	アシリレラ氏 2009年事例5	アシリレラ氏 2024年事例6	萱野志朗氏 2024年事例7
タイトル	サンタリパイナー月中の童子説話-	なまけものの姿	月の中の人の起源	月中の人の起源を語る神話-折りかえし「オイ・オイトゥルケ・オワイ」		お月さんにはいったなまけものの少年の話	からつぼやみの少年
話者	不明 最後「昔姿が歌った歌」	千歳市離島-今柴吉古老伝承	日高荷葉 平目カレピア <small>おひな</small> 鱈 伝承	長万部村・司馬力弥翁 <small>しぼりきんや おきな</small>	母,山道サキ氏明治44より聞	アシリレラ氏(昭和21年生まれ)	萱野志朗氏(昭和33年生まれ)
主人公	童子(男の子)	娘	童子(ヘカチ・ネクル)	少年	男の子(小僧)	少年	少年
炉	(彼は)爐ぶちを叩き叩き、かく云ひこけり『羨しや、爐ぶちは、水を汲まず』	小刀で炉縁に傷をつけて、「お前は炉縁だから、年中背中あぶりばかりして遊んでいて、水汲みをしなくてもよいから…」	<small>イヌンペ</small> 爐縁の前こある台木(イヌンペ・サウシハ)を火箸で叩いたりついたりしながら「羨ましいなあ、汝は台木だから水など汲まずにすむんだ」。爐縁をつついたり叩いたりしながら「羨ましいなあ、汝は爐縁のことだから水など汲まずにすむんだな。	小刀を出して炉を叩き叩き、「炉ぶちはいいな、神様だから水を汲まない」	イヌンペ(炉縁、イロリのフチ)をたたいて、「おまえ(イヌンペ、イロリのフチ)はいいな、背中を火あぶりして、あたたかくな	いろいろばたをぼんぼん、いいなあおまえは火のそばでいいなあ、とたたいた。	いちばんはじめにイヌンペと言って、いろいろのまわりにある炉縁です。炉縁を水汲みに行く柄杓でたたいて、イヌンペはそこでねごろがっているだけでいいなあ。
続いて	戸柱を叩き叩き『羨しや、戸柱は、水を汲まず』	家の柱に手桶をぶっつけながら、「お前も柱だから仕事をしないで…」	「入口小屋(ム・アハシハ)の戸口の柱は羨ましいなあ。水など汲まずにすむんだな」といって、ついたり叩いたりしていた。	戸口の柱を叩き叩き、「いいなあ、柱は水を汲まなくてもいい」	「イロリの灰はここで何もしないでもいいな」と、灰をつつきまわしました。	玄関に立ったら、「柱はいいなあ、柱はここで立っているだけだから」と文句を言った。	柱イヌンペをぼんぼんとたたいて、この柱はまだ立っているだけでいいなあ。
探しに川へ	川添ひの道を我下りけり	川原の砂の上に履物だけがあって、どこにも姿が見えない	川端へ下りて行ったが、童の姿も影も見えなかった。川伝いに下って…	川へ行って見たら、少年も手桶もどこへ行ったやら影も形も見えない。	子どもはいません。桶(おけ)が1つ置いてありました。	ばけつがないから川のとこにいとって川に行つて、なまずさん、うちの孫を知りませんか。	母親が息子を探しにこい。誰こきいてもみんな悪口いって教えてくれない。
魚1/消息を訪ねた答え	鯰(アメノウオ)/われらは、童子がわれらを悪口して、「ポッポッやい!ポッポッやい!」とはやし立てて行きたれば、腹立ちたる故、童子の行くへを、我等云ふまじ	赤腹ウグイの群れ/「あの子は、オレたちのことを、骨だらけで食えない奴だといって悪口をいうから、知っているけれども、行先きを教えない」	いとう(チライ)の群/「人間たちから、いつも大口め(ハラ・マサ)といわれるのが痛(しんぱ)だから教えてはやるまい」	ウグイの群/「少年はいつも俺たちをいじめて、おまえたちの口は、まるで尻(しつ)の穴だから教えてなんかやらないや」	アメマス/「あの怠け者は、(アメマス)のことを斑点だらけの悪いやつというので教えない」	ナマズ/知らない、自分のことをひどい顔だとか悪口を言ったから教えてあげない	どじょう/どじょうにきいても、教えてくれない。

	金田一京助『ユーカラ』事例1	更科源藏『アイヌ民話集』事例2	久保寺逸彦『アイヌの昔話』事例3	知里真志保『アイヌの神話二』事例4	アシリレラ氏 2009年事例5	アシリレラ氏 2024年事例6	萱野志朗氏 2024年事例7
タイトル	サンタリパイナー-月中の童子説話-	なまけもの姿	月の中の人の起源	月中の人の起源を語る神話-折りかえし「オワイオワイトルルケ・オワイ」		お月さんにはいったなまけもの少年の話	からっぽやみの少年
話者	不明 最後に昔姿が歌った歌	千歳市蘭越・今泉栄吉古老伝承	日高高菜 平目カレビア <small>おきな</small> 燼 伝承	長万部村・ <small>しほ</small> 司馬力弥 <small>おきな</small> 翁	母,山道サキ氏明治44より脚	アシリレラ氏昭和21年生まれ	萱野志朗氏(昭和33年生まれ)
主人公	童子(男の子)	娘	童子(ヘカチ・ネ・クル)	少年	男の子(小僧)	少年	少年
炉	(彼は)爐ぶちを叩き叩き、かく云ひこけりー『羨しや、爐ぶちは、水を汲まず』	小刀で炉縁に傷をつけて、「お前は炉縁だから、年中背中あぶりがかりして遊んでいて、水汲みをしなくてもよいから…」	<small>イヌンペ</small> 爐縁の前にある台木(イヌンペ・サウシペ)を火箸で叩いたりついたりしながら「羨ましいなあ、汝は台木だから水など汲まずにすむんだ。爐縁をつついたり叩いたりしながら「羨ましいなあ、汝は爐縁のことだから水など汲まずにすむんだな。」	小刀を出して炉を叩き叩き、「炉ぶちはいいいな、神様だから水を汲まない」	イヌンペ(炉縁、イロリのフチ)をたたいて、「おまえ(イヌンペ、イロリのフチ)はいいいな、背中を火あぶりして、あたたかいな」	いろいろばたをぼんぼん、いいなあおまえは火のそばでいいなあ、とたたいた。	いちばんはじめにイヌンペと言って、いろいろのまわりにある炉縁です。炉縁を水汲みに行く柄杓でたたいて、イヌンペはそこでねっらがっているだけでいいなあ。
続いて	戸柱を叩き叩きー『羨ましや、戸柱は、水を汲まず』	家の柱に手桶をぶつつけながら、「お前も柱だから仕事をしないで…」	「入口小屋(セム・アバシヘ)の戸口の柱は羨ましいなあ。水など汲まずにすむんだな」といって、つついたり叩いたりしていた。	戸口の柱を叩き叩き、「いいなあ、柱は水を汲まなくてもいい」	「イロリの灰はここで何もしないでもいいな」と、灰をつつきまわしました。	玄関に立ったら、「柱もいいなあ、柱はここで立っているだけだから」と文句を言った。	柱イクシペをぼんぼんとたたいて、この柱また立っただけでいいなあ。
探しに川へ	川添ひの道を我下りけり	川原の砂の上に履物だけがあって、どこにも姿が見えない	川端へ下りて行ったが、童の姿も影も見えなかった。川伝いに下って…	川へ行って見たら、少年も手桶もどこへ行つたやら影も形も見えない。	子どもはいません。桶(おけ)が1つ置いてありました。	ばけつがないから川のとこにいてと思って川に行つて、なまずさん、うちの孫を知らせんか。	母親が息子を探しにいく。誰にきいてもみんな悪口いって教えてくれない。
魚1/消息を訪ねた答え	鯨(アメウオ)/われらは、童子がわれらを悪口して、「ポッポッやい!ポッポッやい!」とはやし立てて行きたれば、腹立ちたる故、童子の行くへを、我等云ふまじ	赤腹ウグイの群れ/「あの子は、オレたちのことを、骨だらけで食えない奴だといって悪口をいうから、知っているけれども、行先きを教えない」	いとう(チライ)の群/「人間たちから、いつも-大口め(ハラ・マササ)-といわれるのが癪だから教えてはやるまい」	ウグイの群/「少年はいつも俺たちをいじめて、おまえたちの口は、まるで尻(びつ)の穴だ!と云つてののしつた。だから教えてなんかやらないや」	アメマス/「あの怠け者は、(アメマスのことを)斑点だらけの悪いやつというので教えない」	ナマズ/知らない、自分のことをひどい顔どとか悪口を言ったから教えてあげない	どじょう/どじょうにきいても、教えてくれない。



以下整理中

星名 母「山道サキ氏」(明治44年生まれ、むかわ町出身、二風谷の星名ではないように思える。

1 イユタニノチュウ

(1)2009年の記録

◎イユタニノチュウ(2009年の記録)

福島コハナフチ(フチ;おばあさん)。静内、明治40年生まれ。イユタニに似た星があった。(北尾注 イユタニ:杵)

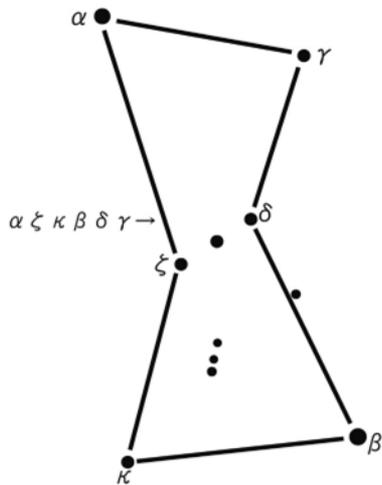
◎イユタニの星の神さま(2009年の記録)

柱の下に、ウス(ニス)をひっくりかえしておいておく。ウスをひっくりかえす。(そうすると地震が起ころうとしても)イユタニの星の神さまが守ってくれる。

ニス、ひっくりかえすと、かみまどにたてておく。ついたほうを上。ニスひっくりかえす。イユタニ反対に。地震で家がつぶれてたとしてもニス(臼)の神さまが守ってくれる。(明治44年生まれの山道サキさん、明治30年代生まれの貝沢トルシノ(アイヌ語で「あかだらけ」という意味)からアシリレラさんが聞いた話)

◎2024年のアシリレラさんの話

アシリレラさんは、六角形になっていると語りながら、オリオンの六角形の形(下図)を手でたどった。

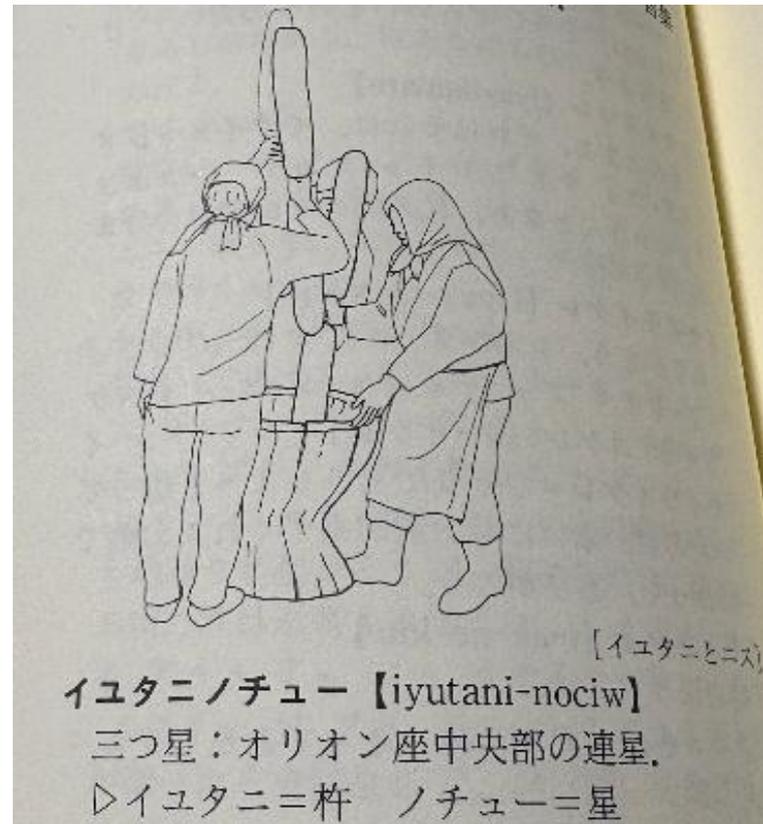


(1) イユタニとニス

『萱野茂のアイヌ語辞典』イユタニノチュー

iyutani-nociw

三つ星：オリオン座中央部の連星



『萱野茂のアイヌ語辞典』より→

アシリレラさんによるニス反対なら・・・

(次回に続く)

ニスの話 (録音文字起こし、北尾浩一、2024年12月4日現在)

W 「うすというたに」「ゆたにのうすがこういううすがある。ひっくりかえすと地震をとめることもできるといわれています」「いけま、植物の根を先をほしといて」「なぜおまえは人間をこらしめるとつきさすと」「うすをひっくりかえしたような星がありますね。あれがアイヌのひとたちが信じてやってきた」

K 「白はアイヌ語で」

W 「ニス」

K 「」

えっさゆたに。えっさゆうたにと、あなたはいまおろした、わたしはつきおろします

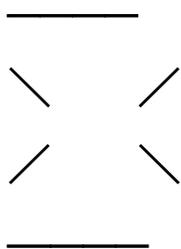
えっさ ひく えっさぴりけぶぴりけぶ かわがはじめる えっさぴりけぶ、えっさゆーたに。

えっさにく° づけえっさ かわがむけた実がでてきた

W 「こーいう臼があるのです。それをひっくりかえした星があるはずですよ。つくのをゆうたに」

K 「ひ と つ の 星 で す か 」

W 「1, 2, 3, 4, 5, 6、六角かなあ」



W 「学名なに」

W 「ベテル

フランス人「ベテルギウス」

Wベテルギウスという学名の星

北尾は歩けないので古屋さんに確認してもらおう

K 「つくところが下になってるのですね」

W 「そう」

◎イワンノチュウ

6つの神。おじいちゃんがいてイナウづくり専念してました。山に行くことままなりません。エカシ（長老）は、狩をするために、一番星出て、夕暮れに出かけました。うとうとして、目を覚ますと、ウォーという声、何かその松の枝が揺れています。人食い熊現れたのです。星がきらきら輝いて見えます。星の神さまが光をあてました。熊の背中に青大将がトグロをまいて… 熊は崖から落ちて死んでいきました。

熊を村に運んで食事にしました。カムイノミをしました。イワンノチュウ、6つの星。6つの神さま。（高田エカシ（静内）の話）

◎パイカラノチュウ

パイカラノチュウ、春の星。朝方まで見える。真上に出てる。4月初め、朝まで残っている。かっこどりが泣いたら畑をおこした。

(北尾注:朝方真上ならベガ。朝方西の空に残っているならアルクトウルス? パイカラ:春)

◎モマウタノチュウ

パイカルノチウが春の星。モマウタノチュウともいう。その星が輝くときにハマナス(マウ)の実がなるという。ハマナスの実をとって食べれる。

(北尾注:うしかい座アルクトウルス?)

アシリレラさん「富川はさるふと(佐瑠太)、さるはかやのこと、ふとは」「ピラカが日高(ひだか)に」:「さるふとの手前にピラカというのがあるのですよ。ピラカは崖なのですよ」「さるふと(佐瑠太)というところは海で」「ちょっと手前にひらかという地名がるのですよ。ピラは崖なんです」「さるふと(佐瑠太)というのは砂浜なんです」「海の砂浜へ行って、なにかを見て、それが6月頃になるのです」

北尾「ひらがやおきさんがくんねばあさんの話を？」

アシリレラさん「その人のいところになるかなあ、その人がモマウ
タノチュウという」「有名な人だよ。なべざわモトアンレク」

アシリレラさん「鍋沢モトアンレク、有名な人だよ。明治生まれ
の」「そのじいさんが、鍋沢モトアンレックさんが、この星を見
た」

◎ピサックノチュウ

アシリレラさん「よくね、ぴっさくぼしというやつのことを云っているのではないか」「ピサックノチュウのことを言っているのではないか」

北尾「ピサックノチュウってあるのですか」

アシリレラさん「ピサック、すくう。ピサク。博物館行ったらよくわかる。ピサックノチュウあるよ」

北尾「ピサックって白樺で作ったのですか」

アシリレラさん「そうそうそう」「そんな形に似た星があるね」「ピサックノチュウって」「それがアラワンノチュウではないかな」(北尾注:アラワン:七つの)

北尾「ピサックノチュウが北斗七星と思う」

アシリレラさん「生活用品を似た星が出たらあわせて言っていたから」「ピサックに似た星」

北尾「この辺は5月頃から畑を耕すのですか？」

アシリレラさん「ちがう4月」

アシリレラさん「だけど、高田エカシはピサックノチュウ」

北尾「高田エカシさんはどこの人？」

アシリレラさん「静内の人」「静内の高田エカシとかオリタフチはピサックノチュウ」(織田ステノさんのこと?)

アシリレラさん「植物がはえてくるころに、熊が出てきて毒出しをしてそのころにピサックの星がでる。あれが出るのは4月」「熊がパッケ?とかを食べて毒を出す。下痢をおかして。熊が」「ピサックの星。そのころの時機にはピサックの星が出るのだ」

アシリレラさん、静内の高田エカシはピサックノチュウ

●「萱野茂のアイヌ語辞典」

ピサックノカ:北斗七星

◎サクノチュウ

夏、サクノチュウ。二風谷の人。西のほうに出る星、消えると、舟を出してはいけない、畑行ってはいけない。南の星、消えると大雨、あらし。

(北尾注:サク:夏。日の入り後、西はアルクトウルス？
南はアンタレス？)

◎チュクノチュウ

秋、チュクノチュウ。チュク;秋。すごく輝く。(北尾注:
:チュク:秋。日の入り後ならベガ？ 日の出前ならシリウス？)

◎マタノチュウ

冬、マタノチュウ。マタ;冬。マタペケレノチュウ。ペケレ;
きらびやかに光る。

◎レップノチュウ

レップノチュウ。3つの星。レップ:3つ。縦に3つ並んだり、横に3つ並んで出るといいこと起きない。

アシリレラさん「レップノチュウ」

北尾「たてにならんだら悪いことがある星ですね」

アシリレラさん「そうそう」

イユタニノチウ:末岡外美夫氏著『アイヌの星』
オリオン座 δ ε ζ

杵 イユタニ
臼 ニス

「萱野茂
のアイヌ
語辞典」
より引用

杵 イユタニ
臼 ニス

★印は北尾
が記入



[イユタニとニス]

イユタニノチュー 【iyutani-nociw】
三つ星：オリオン座中央部の連星。
▷イユタニ＝杵 ノチュー＝星

◎天の川

天の川、ノチウペツ。

北尾「ペツノチウともいいますか？」

アシリレラさん「どちらでもよいのだ」「アイヌの人たちは
ノチウペツ」

◎ペケレノチウ

光り輝く。星の中でも輝く星。

北尾「3時過ぎる、朝の3時ですね。明けの明星でしょう
かねえ」

アシリレラさん「あーうまいこと言うねえ」「明けの明星と
思うよ」



